
二級河川 大津川水系の当面の治水目標の設定について

1. 大津川流域の現状
2. 前回の治水専門部会の審議内容
3. 当面の治水目標の設定

1. 大津川流域の現状

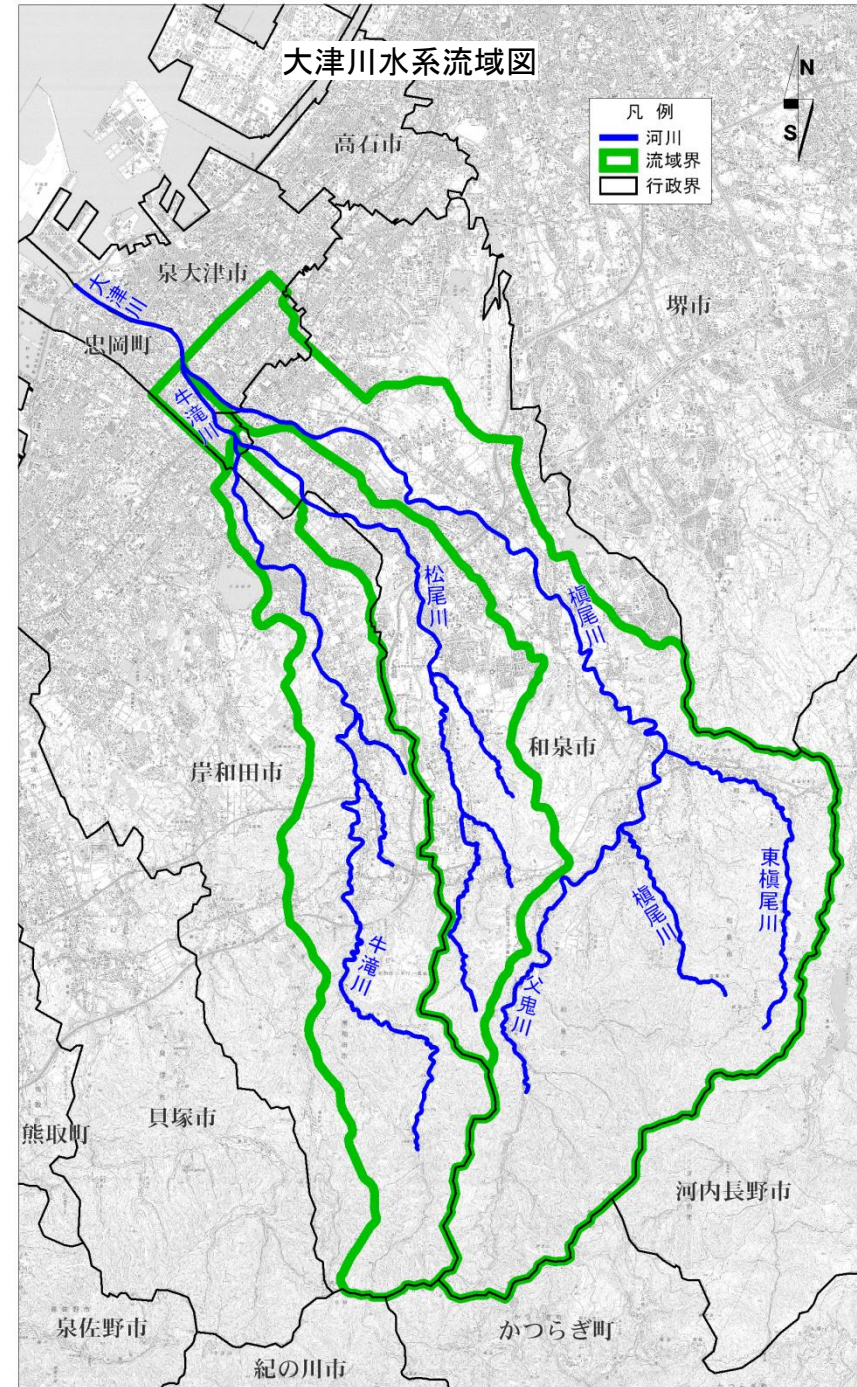
- 大津川水系は、源を葛城山系に発し、父鬼川、東榎尾川、榎尾川、松尾川、牛滝川の支川を合流して大阪湾に注ぐ、流域面積102.2km²、流路延長約68.0km（うち二級河川指定区間流路延長56.6km）の府域最大の二級水系。
- 流域は、和泉市(71.9%)、岸和田市(26.3%)、泉大津市(1.2%)、忠岡町(0.6%)の3市1町にまたがっている。

大津川水系位置図



指定区間延長・流域面積

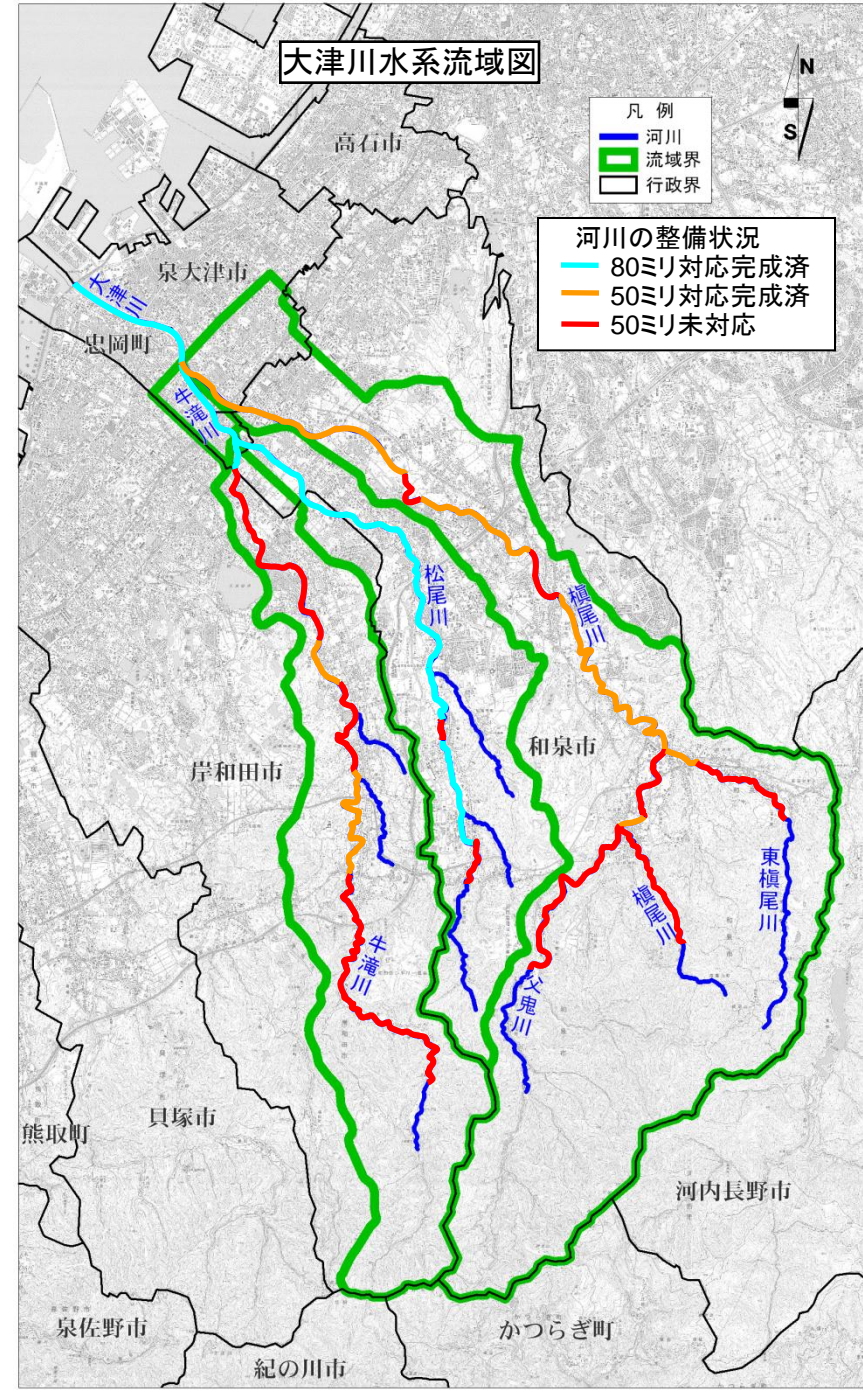
河川名	指定区間延長(km)	流域面積(km ²)
大津川	2.6	102.2
榎尾川	18.3	56.7
父鬼川	3.2	19.7
東榎尾川	2.6	10.6
牛滝川	17.5	45.4
松尾川	12.3	18.0
合計	56.6	102.2



1. 大津川流域の現状

●治水対策の状況

	状況
大津川	○時間雨量80ミリ程度への対応が完成済。 【進捗率】 100% (=2.6/2.6km)
榎尾川	○時間雨量50ミリ対応を実施中。 【進捗率】 79% (=10.0/12.6km)
東榎尾川	○時間雨量50ミリ対応を実施中。 【進捗率】 53% (=0.63/1.2km)
父鬼川	○現状でほぼ時間雨量80ミリ対応が可能のため、 これまで計画的な河川整備は未実施。 【進捗率】 -%
牛滝川	○時間雨量50ミリ程度への対応を実施中。 【進捗率】 54% (=6.8/12.5km)
松尾川	○時間雨量80ミリ程度への対応を実施中。 ○最上流部は開発に伴い整備済。 【進捗率】 92% (=8.6/9.3km)



2. 前回の治水専門部会の審議内容

河川	氾濫シミュレーション結果および当面の治水目標(案)		治水専門部会の審議内容
大津川	現況	●時間雨量80ミリ程度までの降雨では被害が発生しない。 ⇒当面の治水目標を現状維持とする。	了承
槇尾川	現況	●時間雨量50ミリの降雨で危険度Ⅱが発生する。	了承
	50ミリ 対策後	●時間雨量65ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。 ⇒当面の治水目標は時間雨量65ミリ程度とし、その治水手法は河道改修(局所)とする。	
東槇尾川	現況	●時間雨量50ミリの降雨で危険度Ⅰが発生する。	当面の治水目標に関して、「整備水準」と「被害の出方」という2つの視点を踏まえた上の表現方法について、整理が必要
	50ミリ 対策後	●時間雨量65ミリ程度の降雨で危険度Ⅰが発生する。 ●時間雨量80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。 ⇒事業効率比較より、当面の治水目標は時間雨量65ミリ程度とする。	

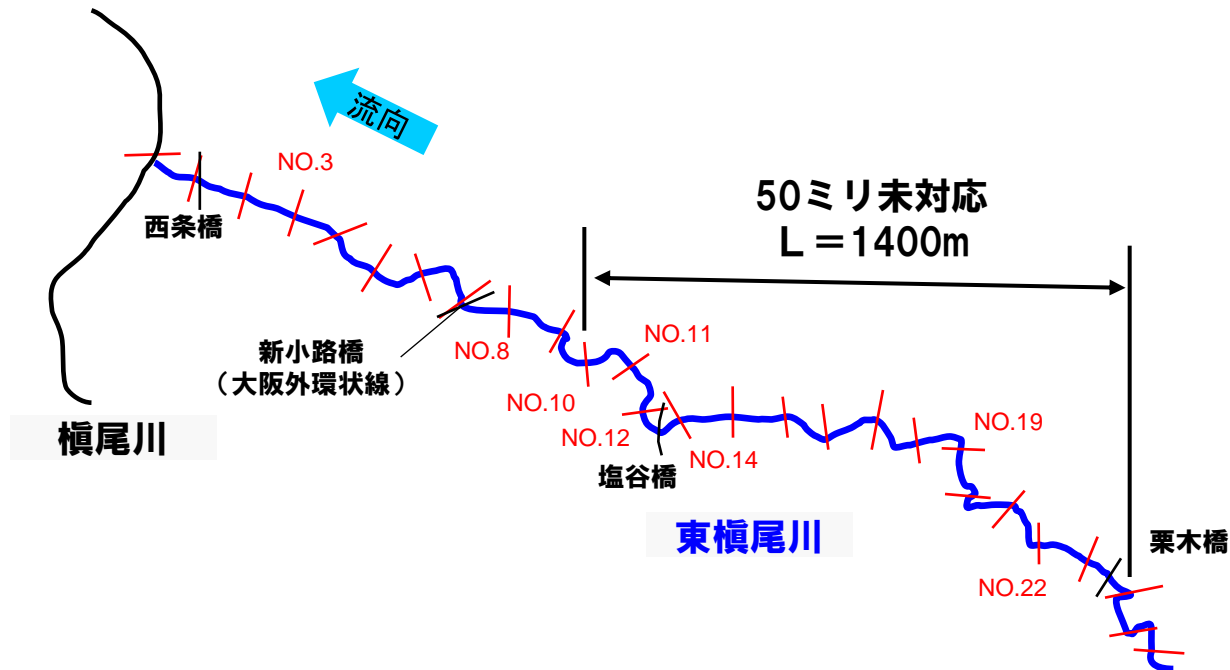
2. 前回の治水専門部会の審議内容

河川	氾濫シミュレーション結果および当面の治水目標(案)		治水専門部会の審議内容
父鬼川	現況	<ul style="list-style-type: none"> ●時間雨量50ミリ・65ミリ程度の降雨では被害が発生しない。 ●時間雨量80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。(ただし、人家への被害は発生しない) ⇒当面の治水目標は、現状維持とする。	維持管理による治水対策の考え方の位置づけの整理が必要
牛滝川	現況	●時間雨量50ミリの降雨で危険度Ⅱが発生する。	了承
	50ミリ対策後	<ul style="list-style-type: none"> ●時間雨量65ミリ程度・80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。 ⇒事業効率比較より、当面の治水目標は時間雨量65ミリ程度とする。	
松尾川	現況	<ul style="list-style-type: none"> ●時間雨量50ミリ・65ミリ程度・80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。(ただし、人家への被害は発生しない。) ⇒未改修区間が僅かで用地交渉も概ね進んでいること、及びその上流部が開発に伴い80ミリ対策が完成していることから、当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度(現計画規模)とする。	人的被害(危険度Ⅱ以上)がない中での残区間に対する河川改修の考え方の整理が必要

3. 当面の治水目標の設定 【東槇尾川】

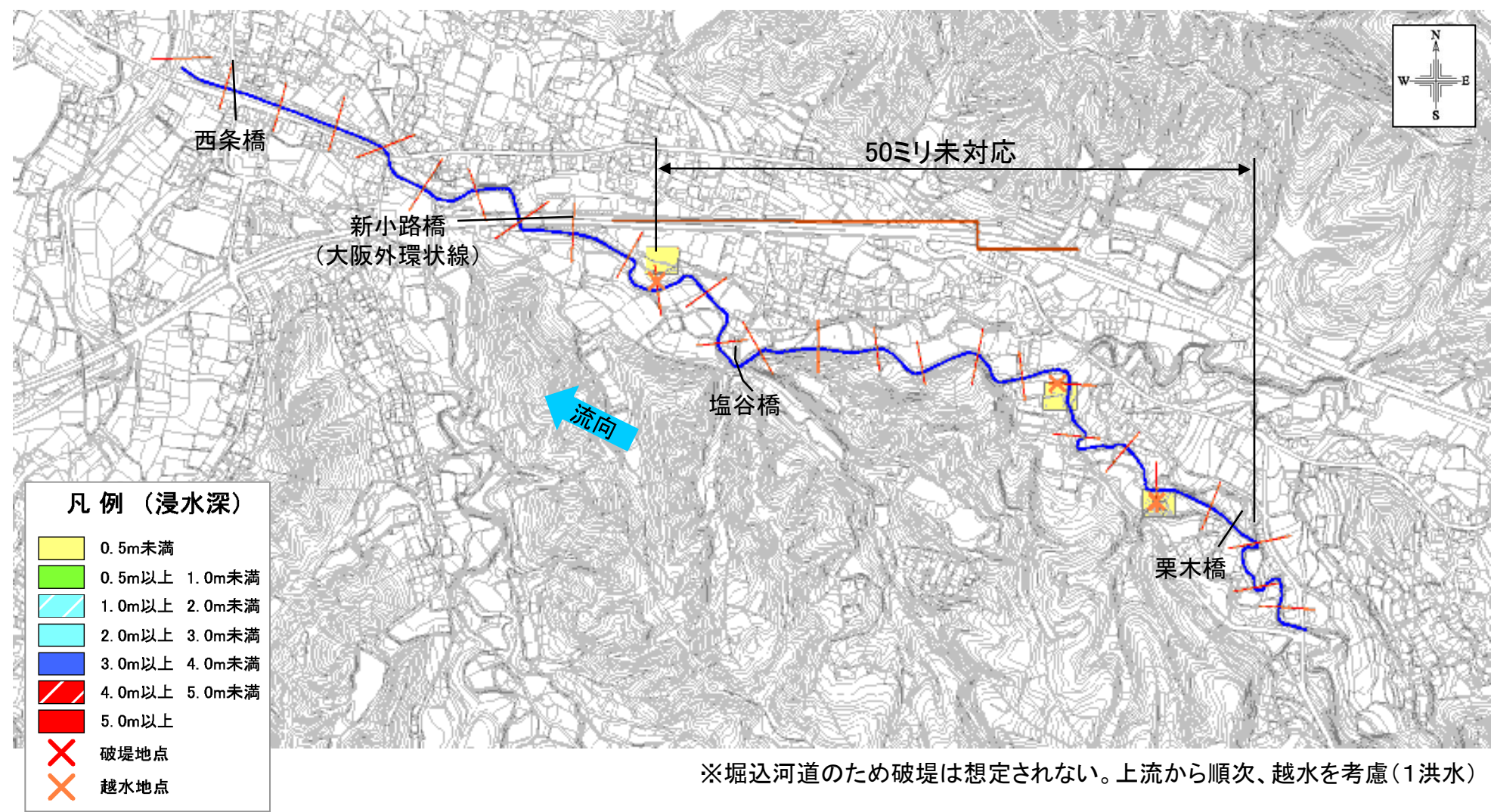
3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：現況河道における氾濫解析】

- 現況河道での危険度(被害想定)を氾濫解析により確認する。
- 氾濫解析の前提条件は以下のとおり。
 - 現況河道（一部の区間において50ミリ未対応）で氾濫解析を実施。
 - 河道と氾濫原を一体的に解析、河道への復流を考慮したモデル。
 - 氾濫原のメッシュサイズは50m。
 - 対象降雨は、時間雨量50ミリ、時間雨量65ミリ程度、時間雨量80ミリ程度、時間雨量90ミリ程度の4ケース。



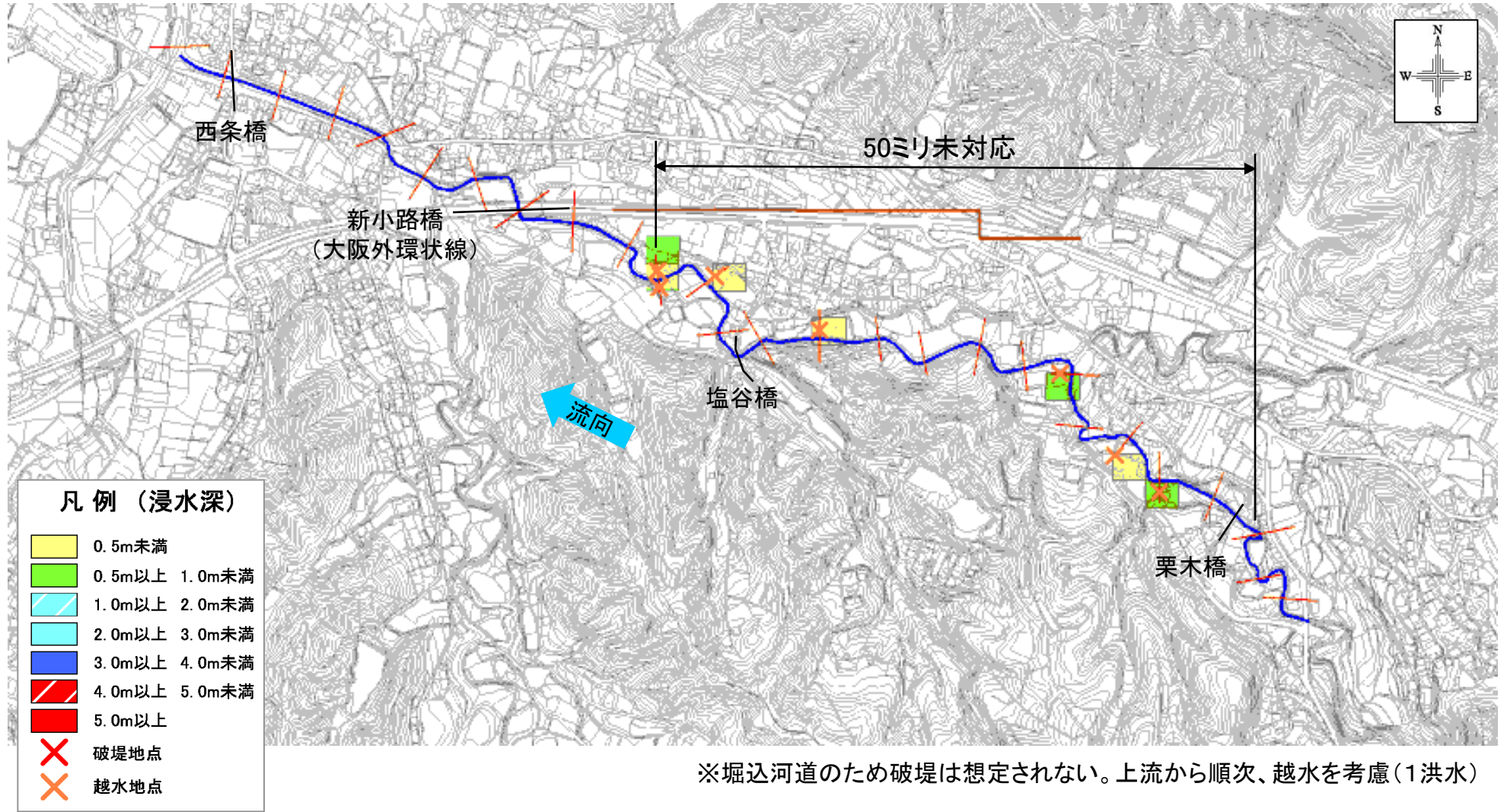
3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量50ミリ



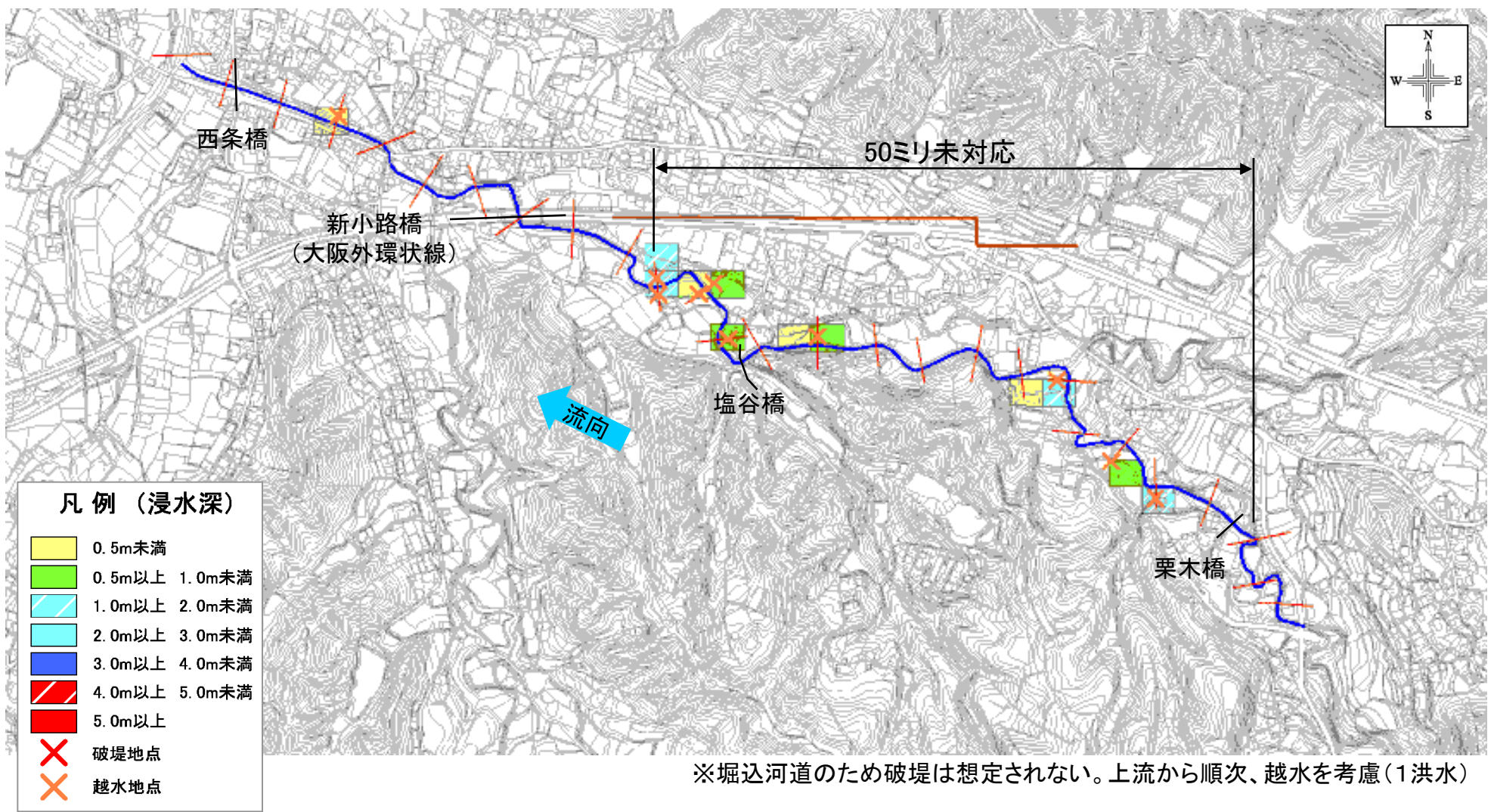
3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量65ミリ程度



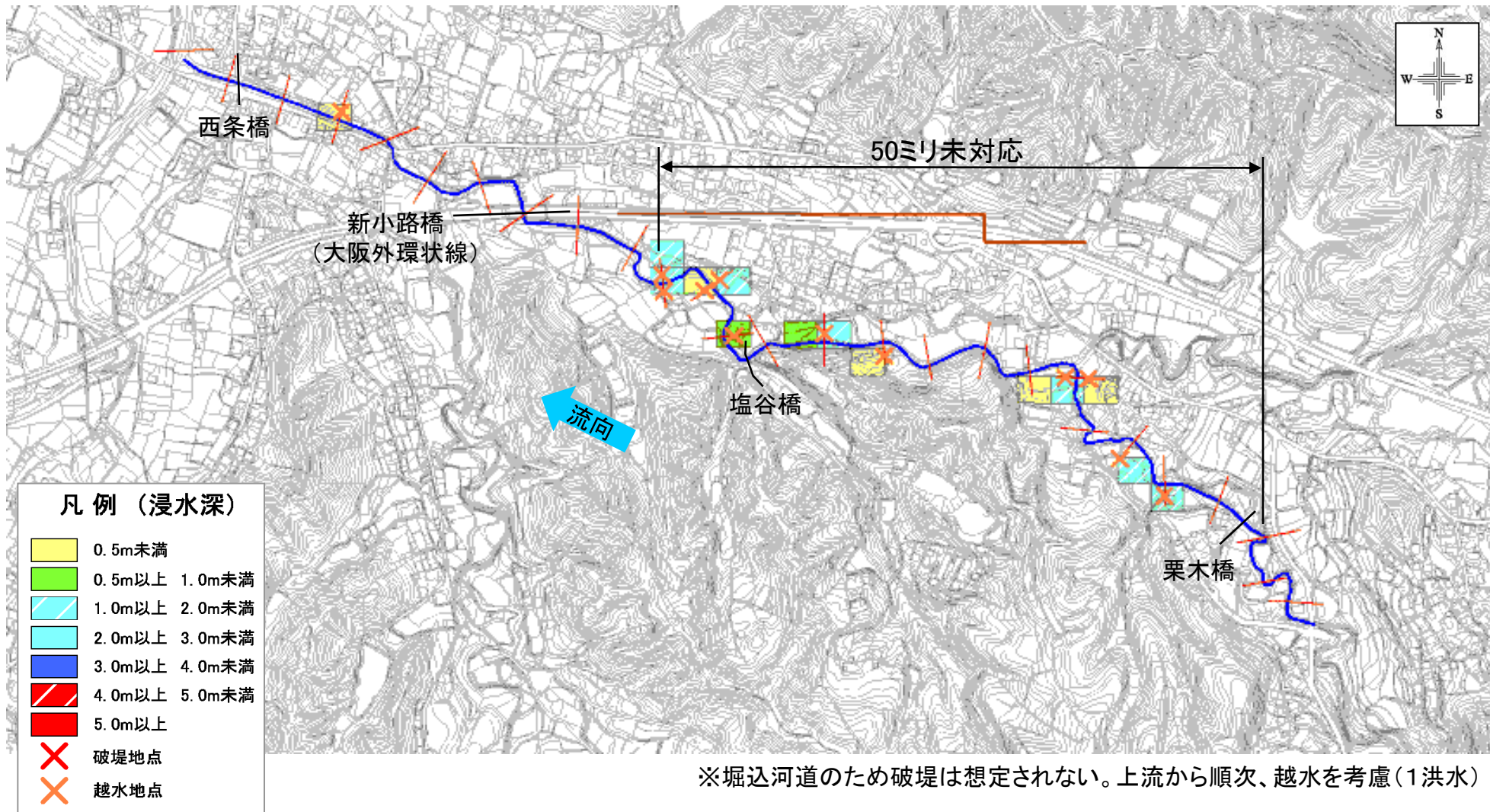
3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量80ミリ程度



3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量90ミリ程度



3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：現況河道における氾濫解析】

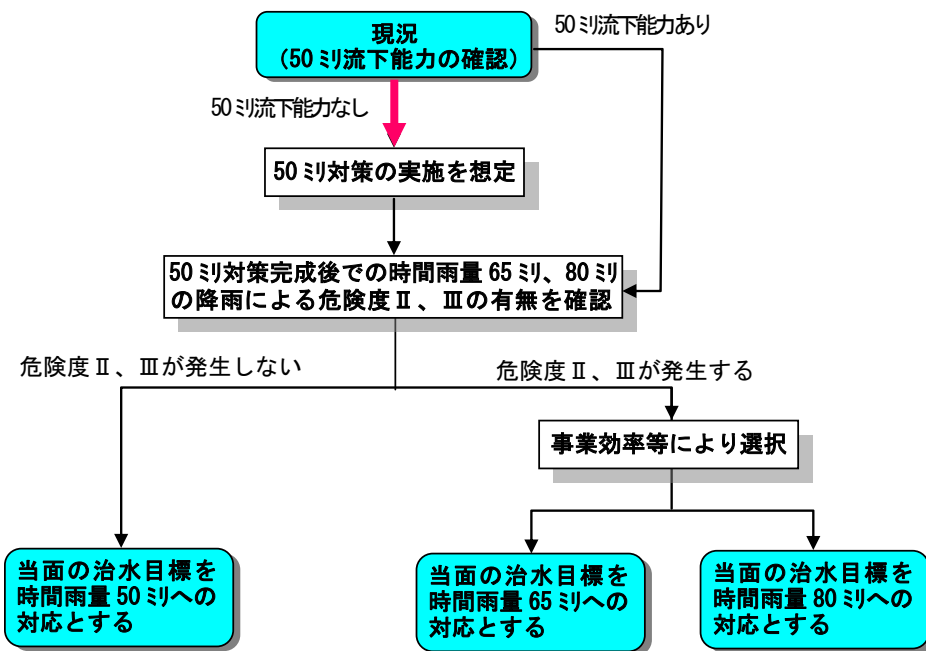
■ 現況河道(東槇尾川)・・・時間雨量50ミリの降雨で**危険度 I**が発生する。

(年確率)	危険度 I	危険度 II	危険度 III
大 50ミリ (1/10程度)	0.75ha 1人 16百万円	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	1.00ha 0人 1百万円	0.75ha 1人 78百万円	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	1.00ha 2人 4百万円	2.00ha 3人 157百万円	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	2.25ha 2人 4百万円	2.25ha 3人 158百万円	被害なし

(発生頻度) ↑ ↓ 小

床下浸水 床上浸水 (0.5m以上) 壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m³/s²以上)

小 ← (被害の程度) → 大

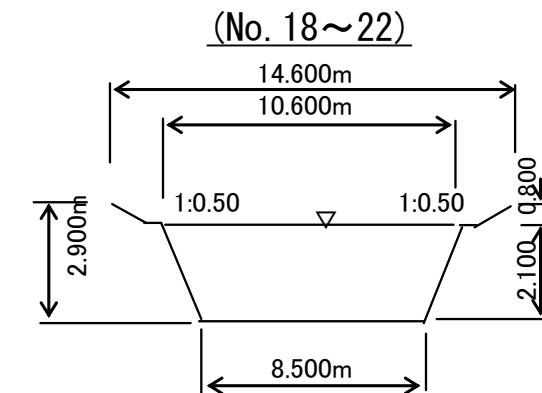
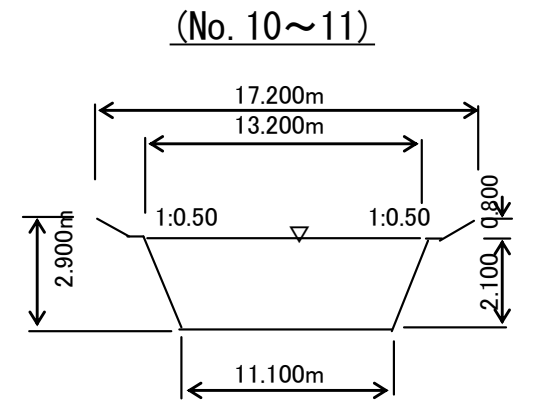
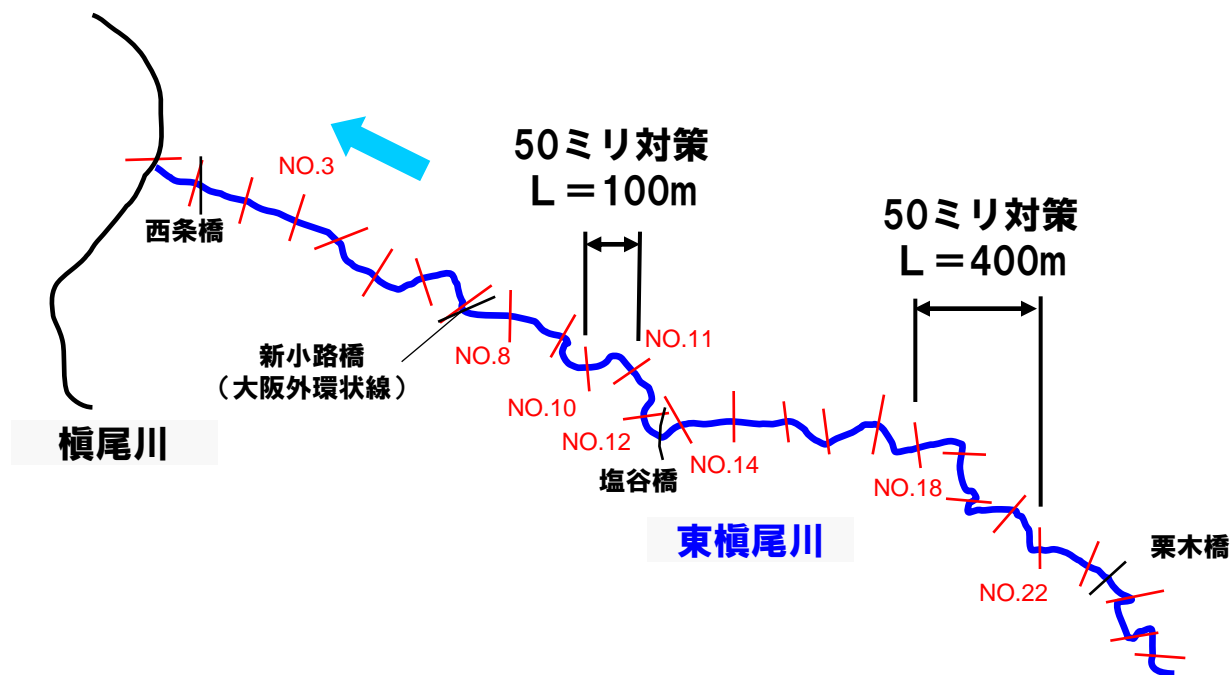


当面の治水目標の設定フロー

時間雨量50ミリ対策の実施を想定

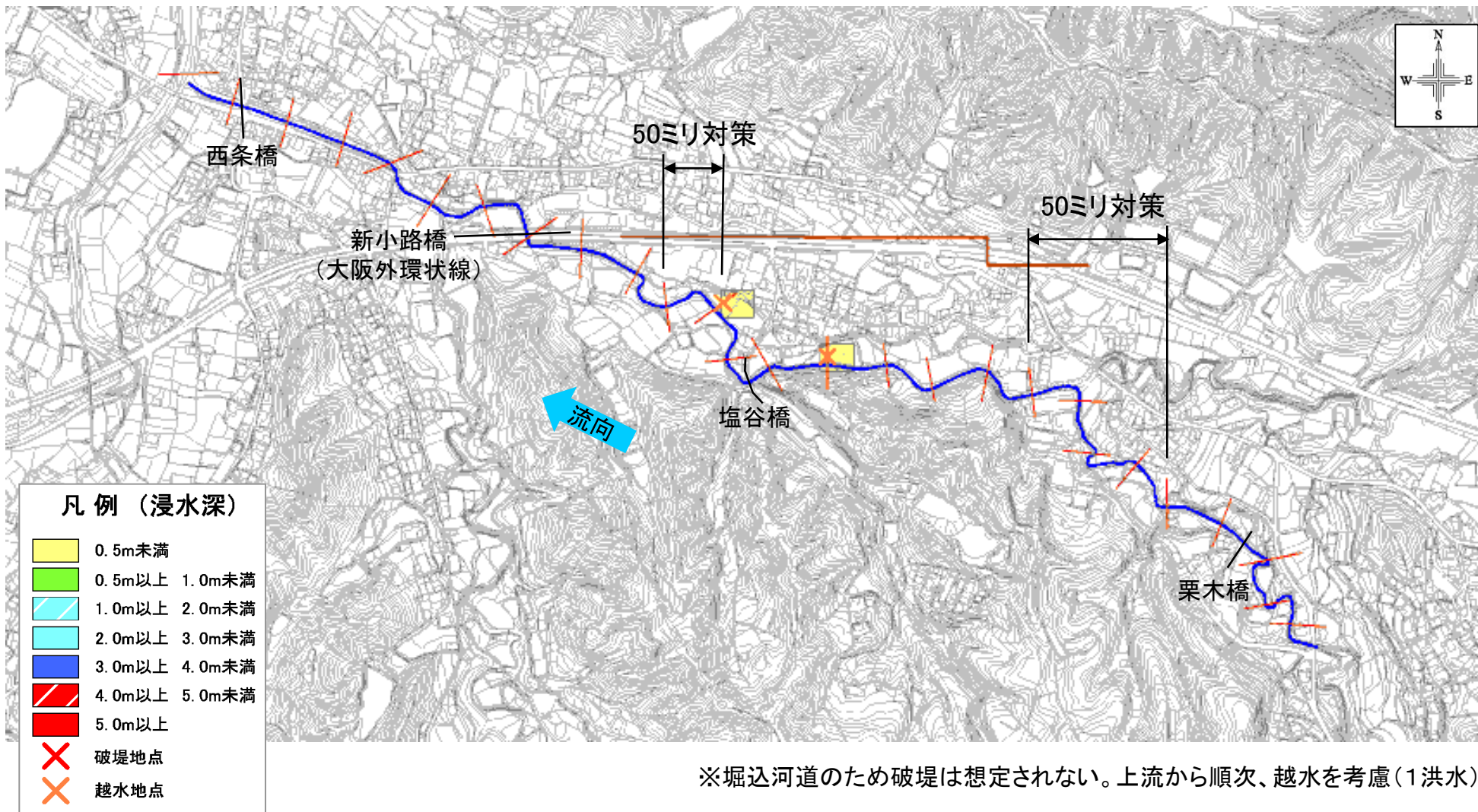
3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：50ミリ対策河道における氾濫解析】

- 50ミリ対策完成河道での危険度を氾濫解析により確認する。
- 氾濫解析の前提条件は以下のとおり。
 - 河道改修による50ミリ対策を実施。
 - 河道と氾濫原を一体的に解析、河道への復流を考慮したモデル。
 - 氾濫原のメッシュサイズは50m。
 - 対象降雨は、時間雨量65ミリ程度、時間雨量80ミリ程度、時間雨量90ミリ程度の3ケース。



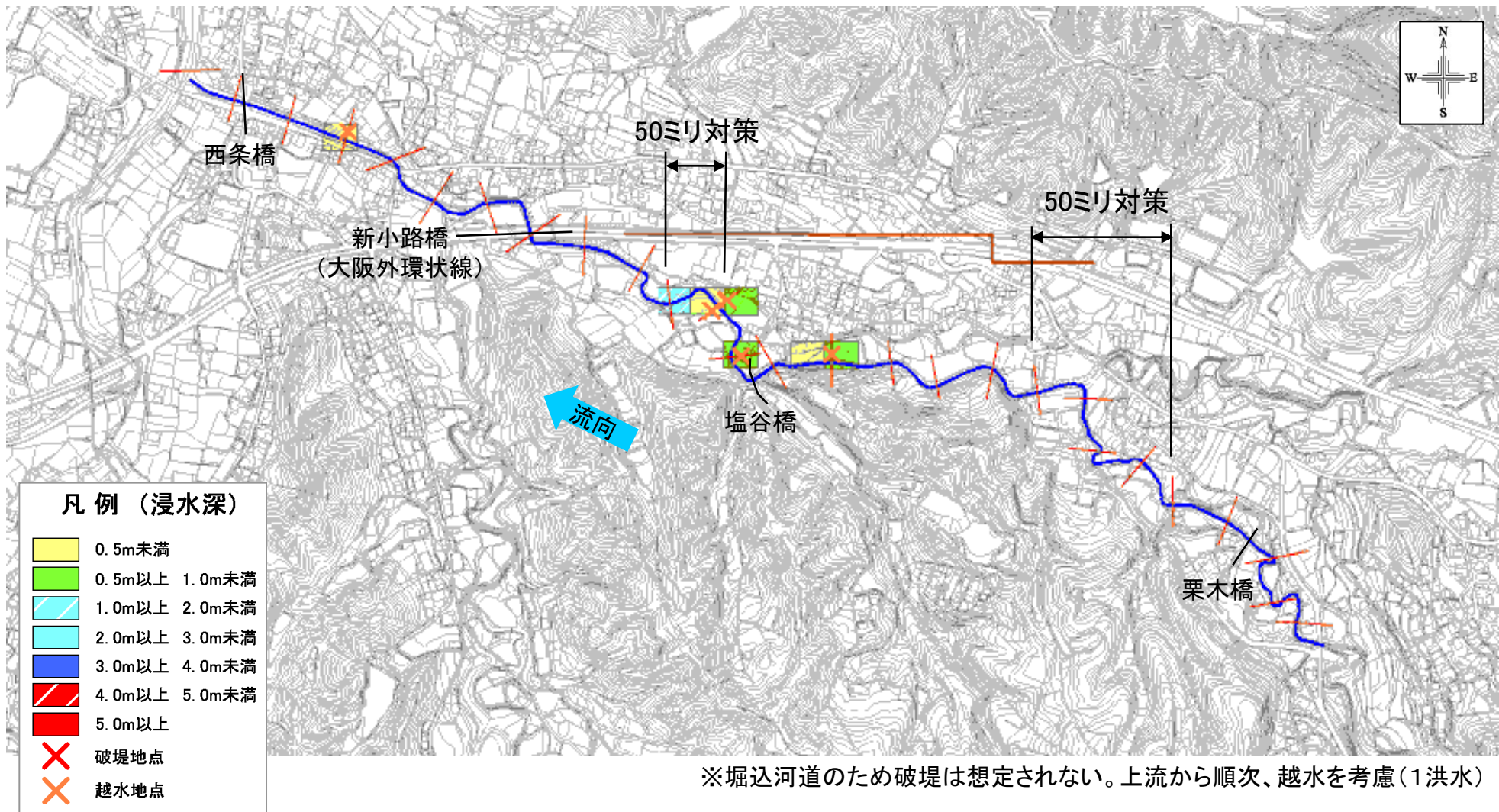
3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：50ミリ対策河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量65ミリ程度



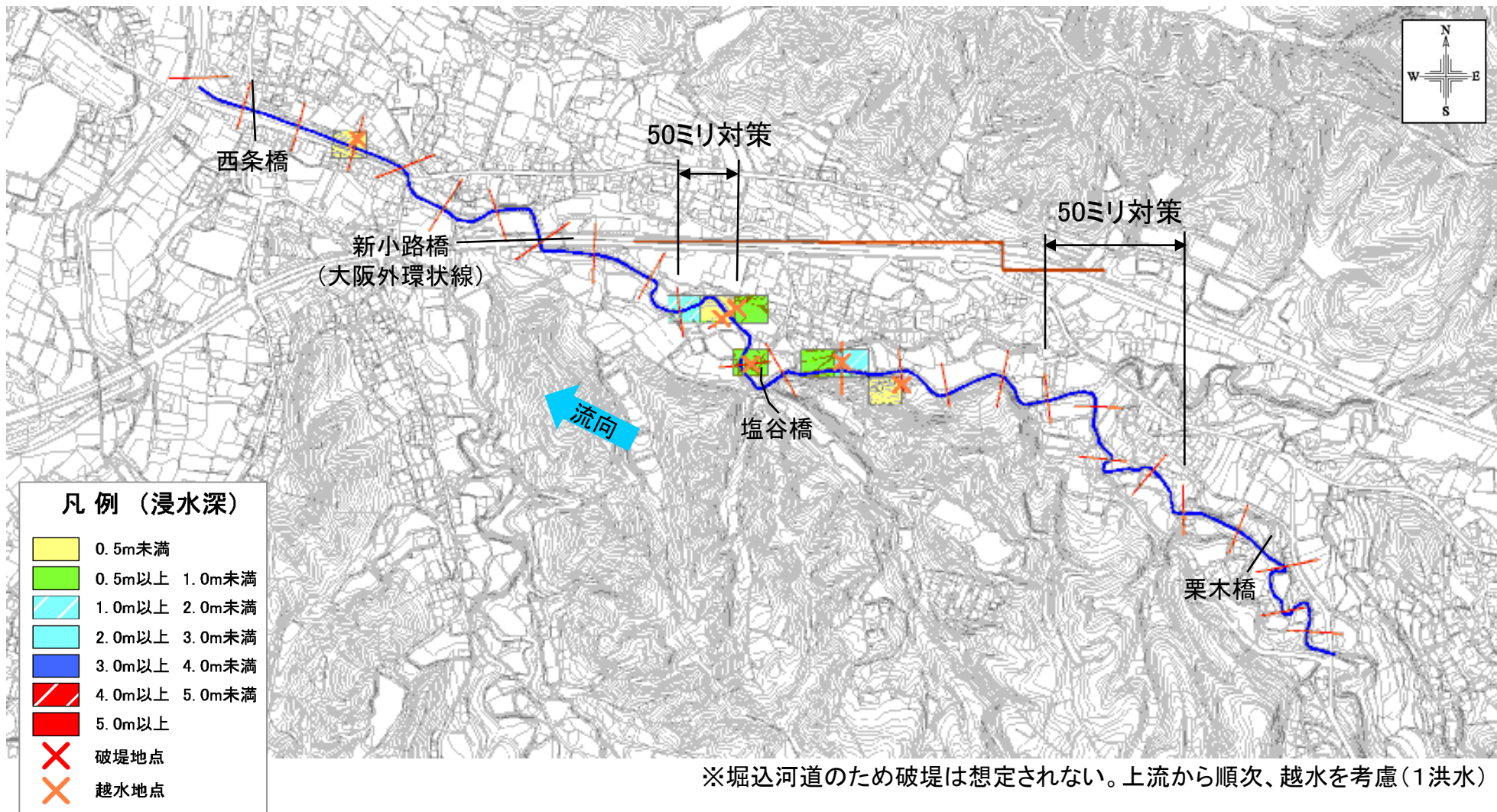
3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：50ミリ対策河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量80ミリ程度



3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：50ミリ対策河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量90ミリ程度



3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：50ミリ対策河道における氾濫解析】

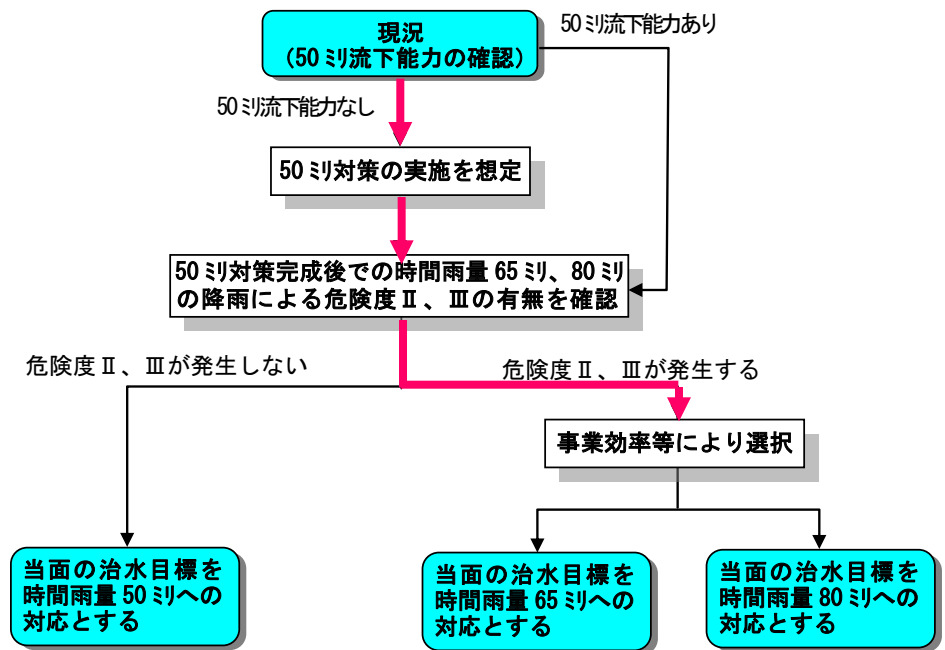
■50ミリ対策完成後（東槇尾川）・・・時間雨量65ミリ程度の降雨で**危険度Ⅱ**は発生しない。
 時間雨量80ミリ程度の降雨で**危険度Ⅱ**が発生する。

(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	0.50ha 0人 0百万円	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	0.75ha 2人 2百万円	1.00ha 2人 14百万円	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	0.75ha 2人 2百万円	1.25ha 2人 14百万円	被害なし

大 ↑ (発生頻度) ↓ 小

小 ← (被害の程度) → 大

床下浸水 床上浸水 (0.5m以上) 壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m³/s²以上)



当面の治水目標の設定フロー

時間雨量65ミリ程度もしくは時間雨量80ミリ程度の対策を事業効率等により選択

3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：治水手法の検討】

■ 治水手法の検討

東槇尾川における治水手法の検討にあたっては、以下に示す実現可能な3案を抽出し、経済性、周辺地域への影響等による比較検討の結果、河道改修による対策を仮設定。

治水対策案	河道改修(局所)	放水路(+1/10対策)	遊水地(+1/10対策)
概要	河道拡幅及び河床掘削を行うことで、河積を確保する。	1/10対策を行い、放水路を設置することで流下能力の向上を図る。	1/10対策改修を行い、耕作地等に遊水地を設置することで、洪水調節を図る。
治水上の評価・ 超過洪水への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・現況河道の流下能力が向上する。 ・超過洪水に対しても一定の効果が見込まれる。 ・改修箇所から随時治水効果が発現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放水路を分岐させた地点より下流で、流下能力が向上する。 ・超過洪水に対しても一定の効果が見込まれる。 ・放水路が完成して初めて効果が発現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間の集中豪雨に対して高い効果が得られる。 ・下流全域に効果を発現する。 ・超過洪水に対する効果は低い。 ・遊水地が完成して初めて効果が発現する。
自然環境上の評価	・河道内を改修するため、河川環境に大きな影響を及ぼす。	・影響は小さい。	河川内の影響は少ないが、遊水地を設置する耕作地への環境が改変する。
社会環境上の評価	・用地買収を伴うため、沿川の土地利用に変化が生じる。	・影響は小さい。	・遊水地設置のための用地買収を伴うため、土地利用の変化が大きい。
施工性・実現性	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な河川改修であり、施工性・実現性は高い。 ・用地買収を伴うため、施工に長時間を要する。 	・地質条件によっては、施工性が低い可能性がある。	・遊水地設置可能な場所に限りがあるが、受益者と土地提供者が異なるため、大規模な用地取得が困難となる可能性がある。
概算事業費 (50ミリ対策後から)	時間雨量65ミリ対策： 0.0億円 時間雨量80ミリ対策： 2.4億円	時間雨量65ミリ対策： 0.0億円 時間雨量80ミリ対策： 41.7億円	時間雨量65ミリ対策： 0.0億円 時間雨量80ミリ対策： 95.8億円
総合評価	実現性が高く、事業費も安価。	事業費が高く、効果の発現が遅い。	事業費が高く、大規模な用地買収を伴うため、実現性が低い。
	○	×	×

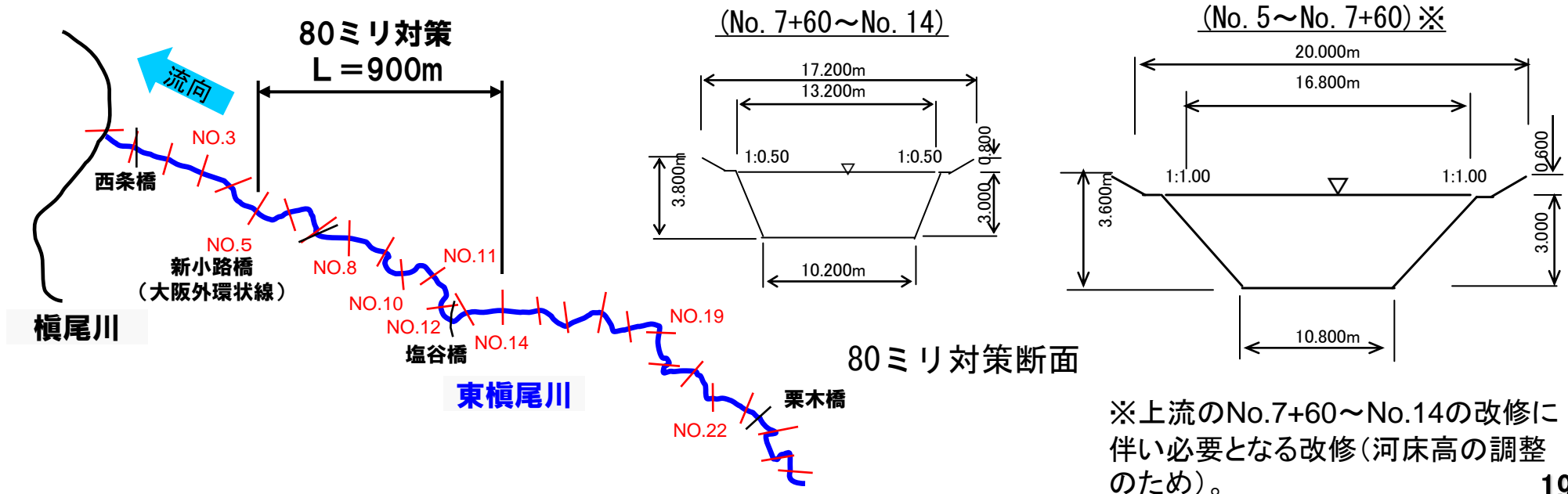
3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：80ミリ対策河道における氾濫解析】

■80ミリ対策完成河道での危険度を氾濫解析により確認する。

※時間雨量65ミリ程度では危険度Ⅱの被害が生じないため時間雨量65ミリ対策は行わない。

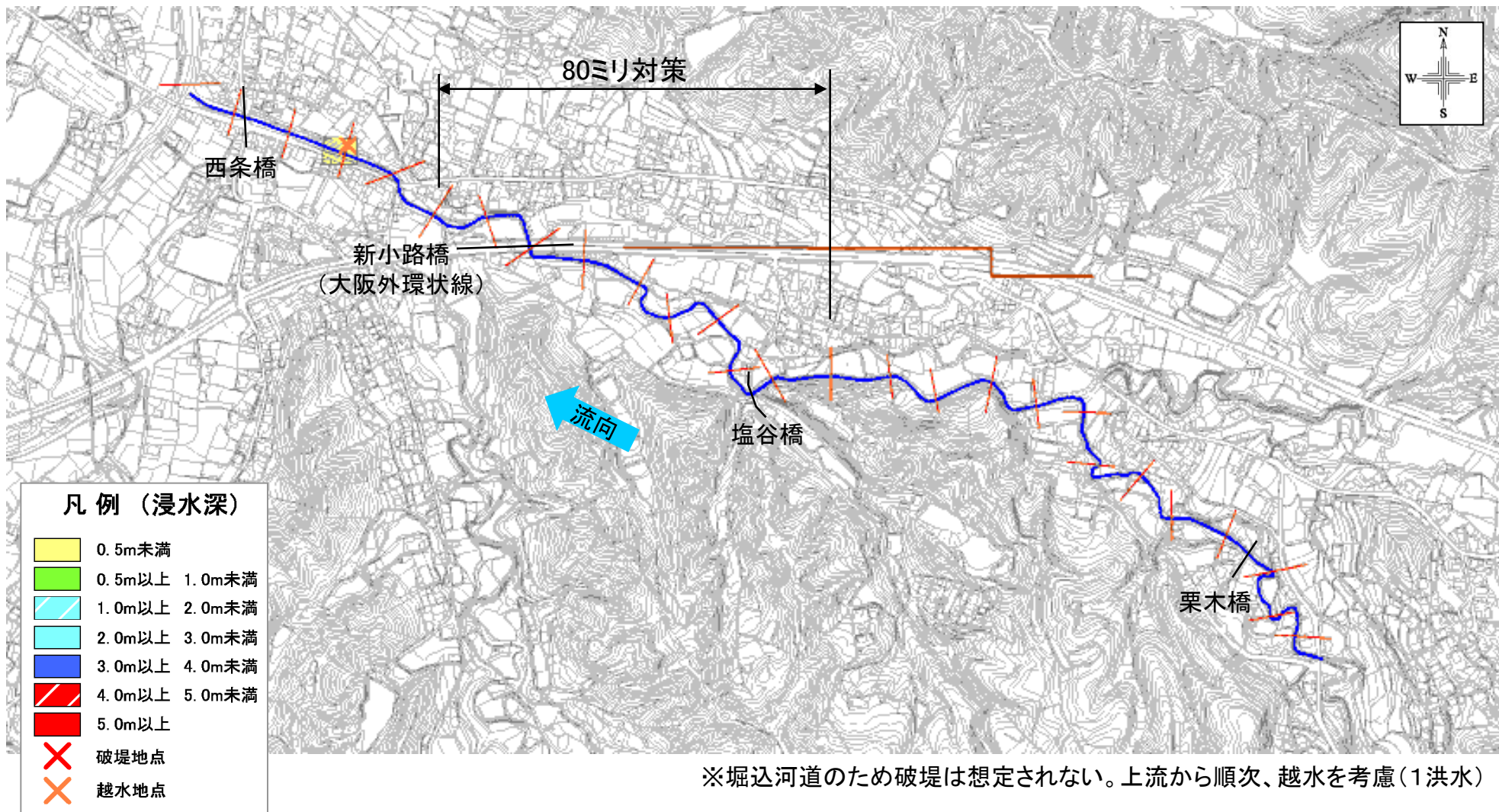
■氾濫解析の前提条件は以下のとおり。

- 時間雨量80ミリ対策は河道改修とし、局所的な断面改修(上川橋上流付近～塩谷橋上流付近 900m)とする。
- 時間雨量80ミリ程度の降雨に対して危険度Ⅱが解消するレベルの対策を想定。
- 河道と氾濫原を一体的に解析、河道への復流を考慮したモデル。
- 氾濫原のメッシュサイズは50m。
- 対象降雨は、時間雨量80ミリ程度、時間雨量90ミリ程度の2ケース。



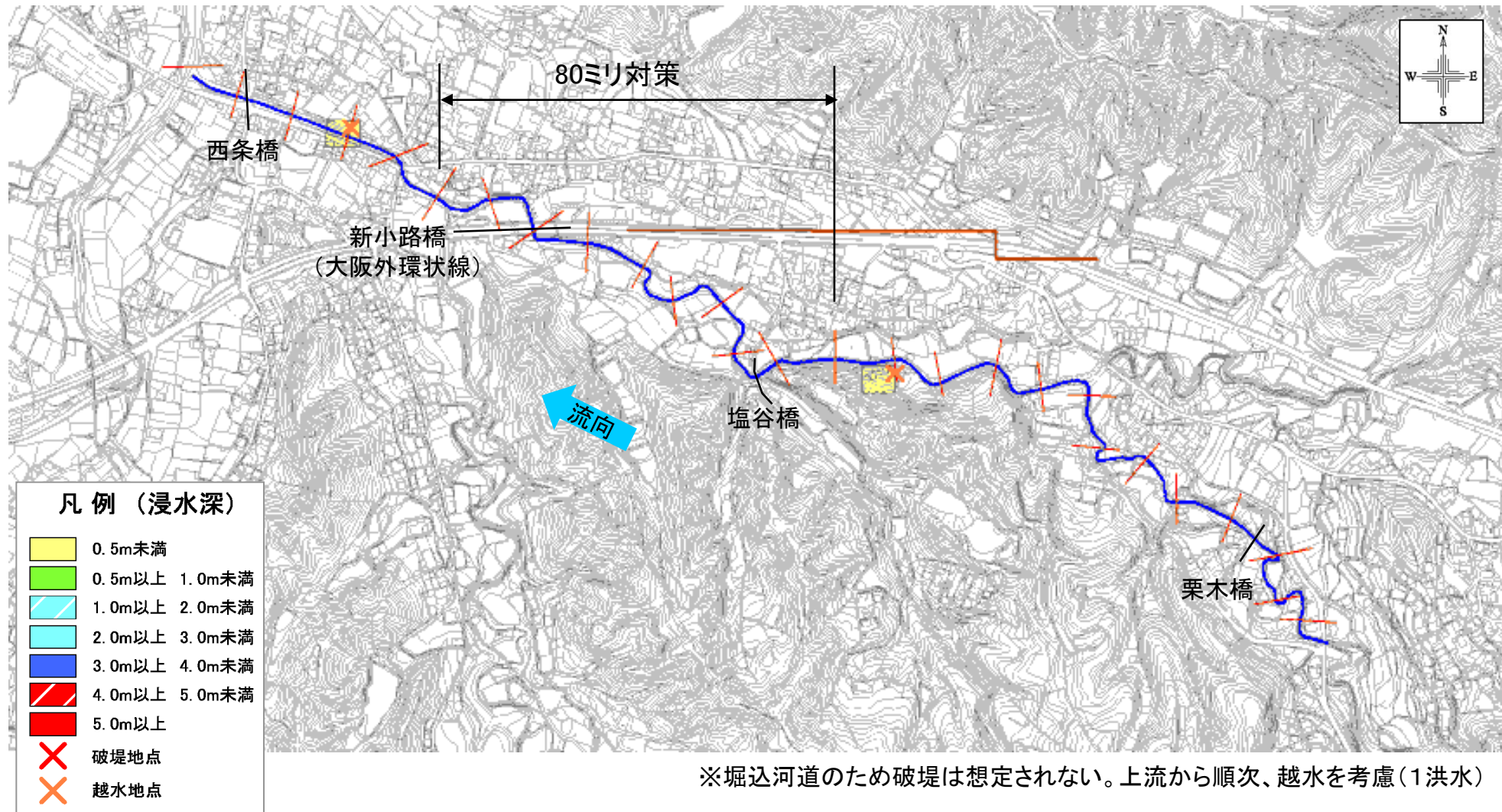
3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：80ミリ対策河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量80ミリ程度



3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：80ミリ対策河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量90ミリ程度



3. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：当面の治水目標】

65ミリ対策※後の危険度

(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	0.50ha 0人 0百万円	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	0.75ha 2人 2百万円	1.00ha 2人 14百万円	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	0.75ha 2人 2百万円	1.25ha 2人 14百万円	被害なし

(発生頻度) 大 ↑ ↓ 小
 (被害の程度) 小 ← → 大

床下浸水 床上浸水 (0.5m以上) 壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m3/s2以上)

効果：0円
費用：0円

効果－費用：0円

大 > 小

80ミリ対策後の危険度

(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	0.25ha 2人 2百万円	被害なし	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	0.50ha 2人 2百万円	被害なし	被害なし

(発生頻度) 大 ↑ ↓ 小
 (被害の程度) 小 ← → 大

床下浸水 床上浸水 (0.5m以上) 壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m3/s2以上)

効果：35百万円
費用：255百万円

効果－費用：-220百万円

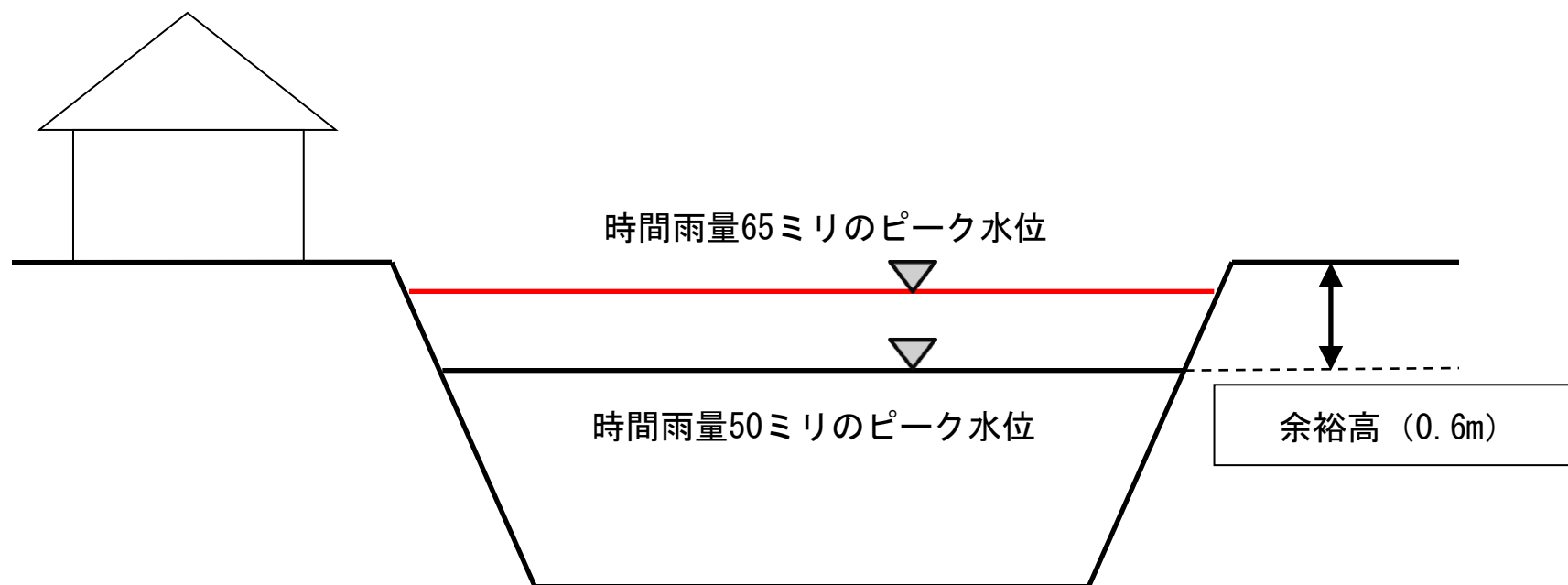
当面の治水目標を時間雨量65ミリ程度※とする

※東槇尾川においては、時間雨量50ミリへの対策として掘込河道で余裕高を確保することから、実質的には時間雨量65ミリ程度の対策となる。

○ 当面の治水目標の呼称について

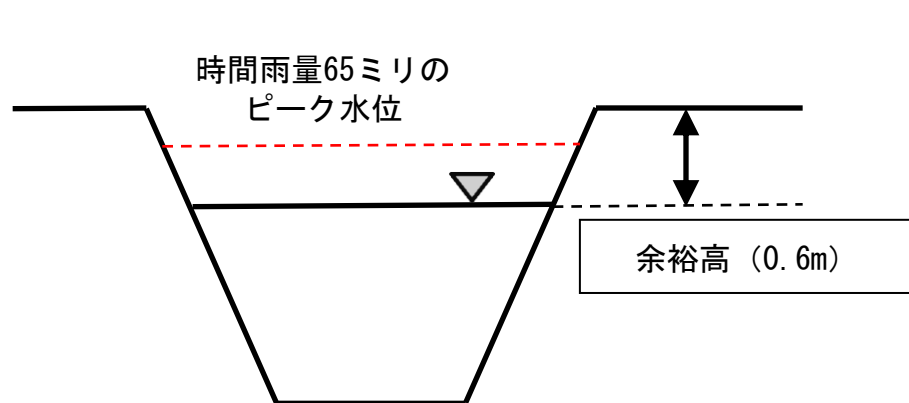
時間雨量65ミリ程度対応の河川断面と時間雨量50ミリ対応の河川断面が同一であった場合の当面の治水目標の呼称について

- 府管理河川の約90%で50mm対策が完了していることや、高頻度で溢水の危険が生じることを避けることなどを目的に、堀込河道においても、50mm対策では余裕高を確保することとしている。このことから、50mm対策実施後において、時間雨量65mm（や時間雨量80mm）の洪水が河道から溢れない可能性がある。

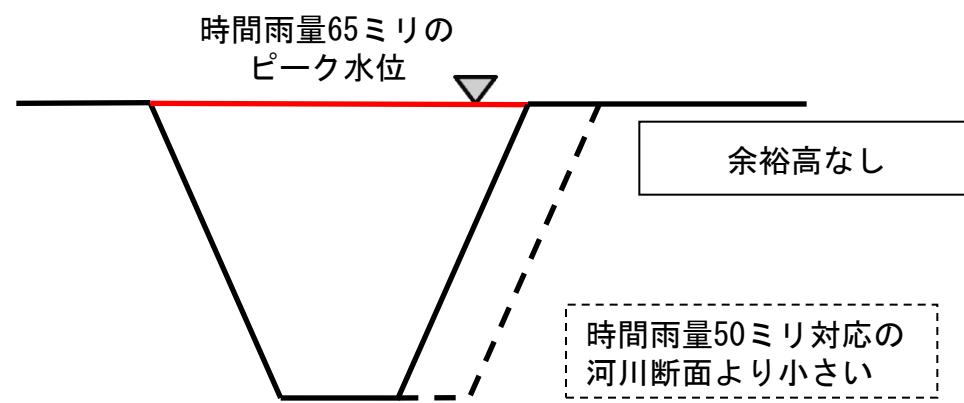


○ 当面の治水目標の呼称について

- ・ 時間雨量50ミリ対応の河川断面が、時間雨量65ミリ対応の河川断面よりも大きい場合がある。（下図参照）
- ・ このような場合に、時間雨量50ミリ対応の河川断面を小さく改修することはないことから、時間雨量65ミリ対応の河川断面と時間雨量50ミリ対応の河川断面が同一になる。



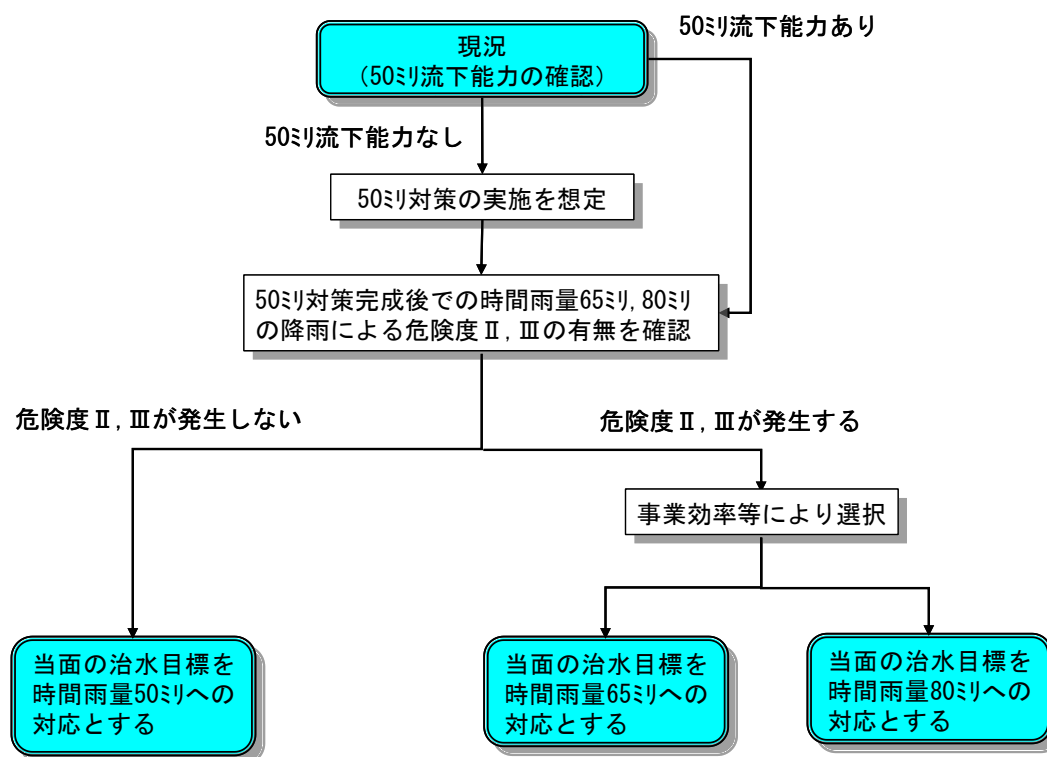
時間雨量50ミリ対応の河川断面



時間雨量65ミリ対応の河川断面

○ 当面の治水目標の呼称について

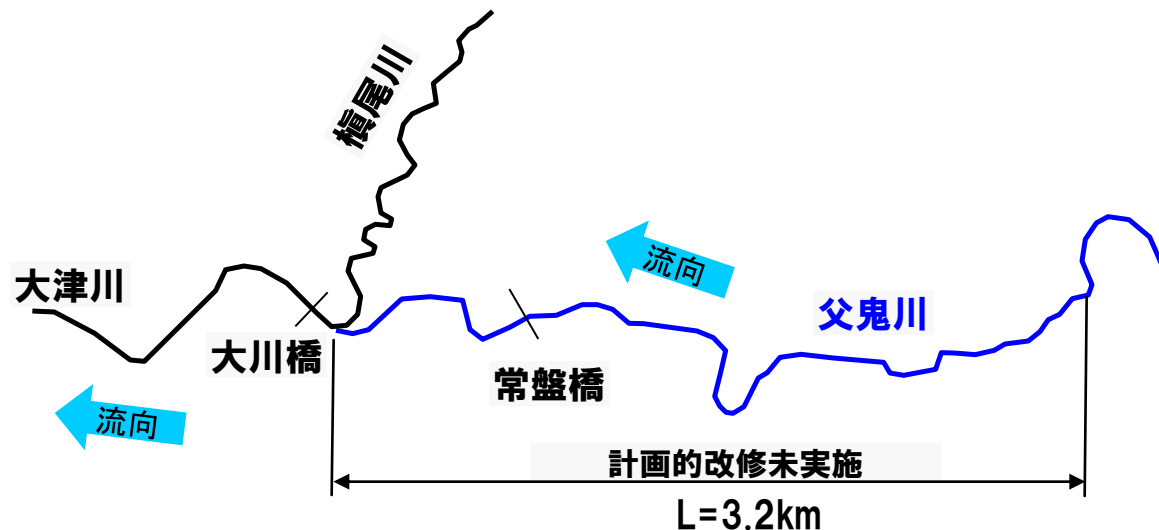
- ・ 当面の治水目標は、下図のフローに従って設定している。
- ・ 時間雨量50ミリ対応と時間雨量65ミリ対応の河川断面が同一の場合において、当面の治水目標の検討経過も含めて、フローの到達点の呼称を当面の治水目標の呼称とする。
- ・ なお、「今後の治水対策の進め方（報告書）」が目標とする治水安全度は、
『時間雨量50ミリ程度の降雨で床下浸水を、少なくとも時間雨量65ミリ程度の降雨で床上浸水を発生させない』
であり、全ての府管理河川でこの目標の達成を目指す。



3. 当面の治水目標の設定 【父鬼川】

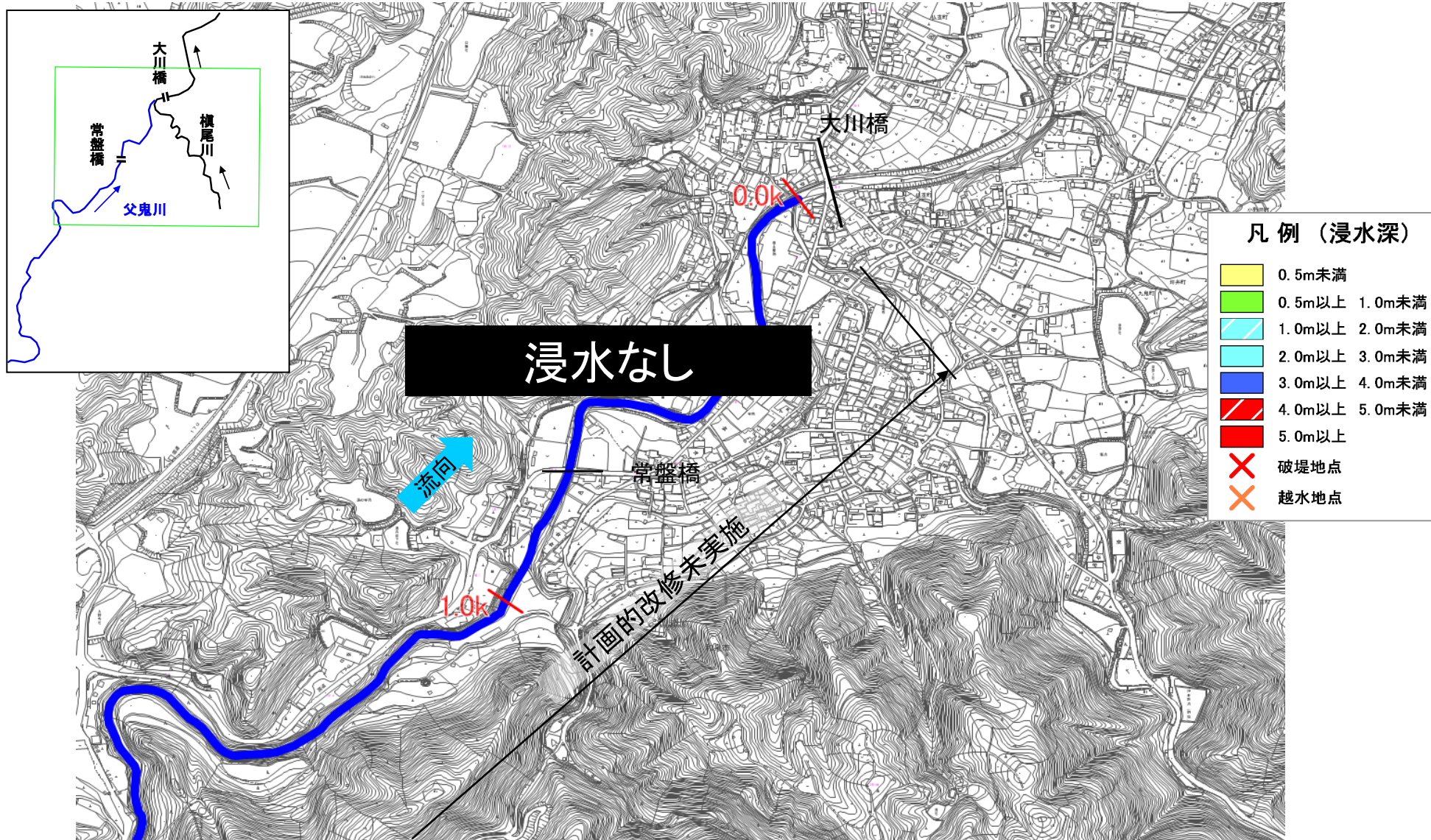
3. 当面の治水目標の設定【父鬼川：現況河道における氾濫解析】

- 現況河道での危険度（被害想定）を氾濫解析により確認する。
- 氾濫解析の前提条件は以下のとおり。
 - 現況河道（これまで計画的な河道改修は未実施）で氾濫解析を実施。
 - 河道と氾濫原を一体的に解析、河道への復流を考慮したモデル。
 - 氾濫原のメッシュサイズは50m。
 - 対象降雨は、時間雨量50ミリ、時間雨量65ミリ程度、時間雨量80ミリ程度、時間雨量90ミリ程度の4ケース。



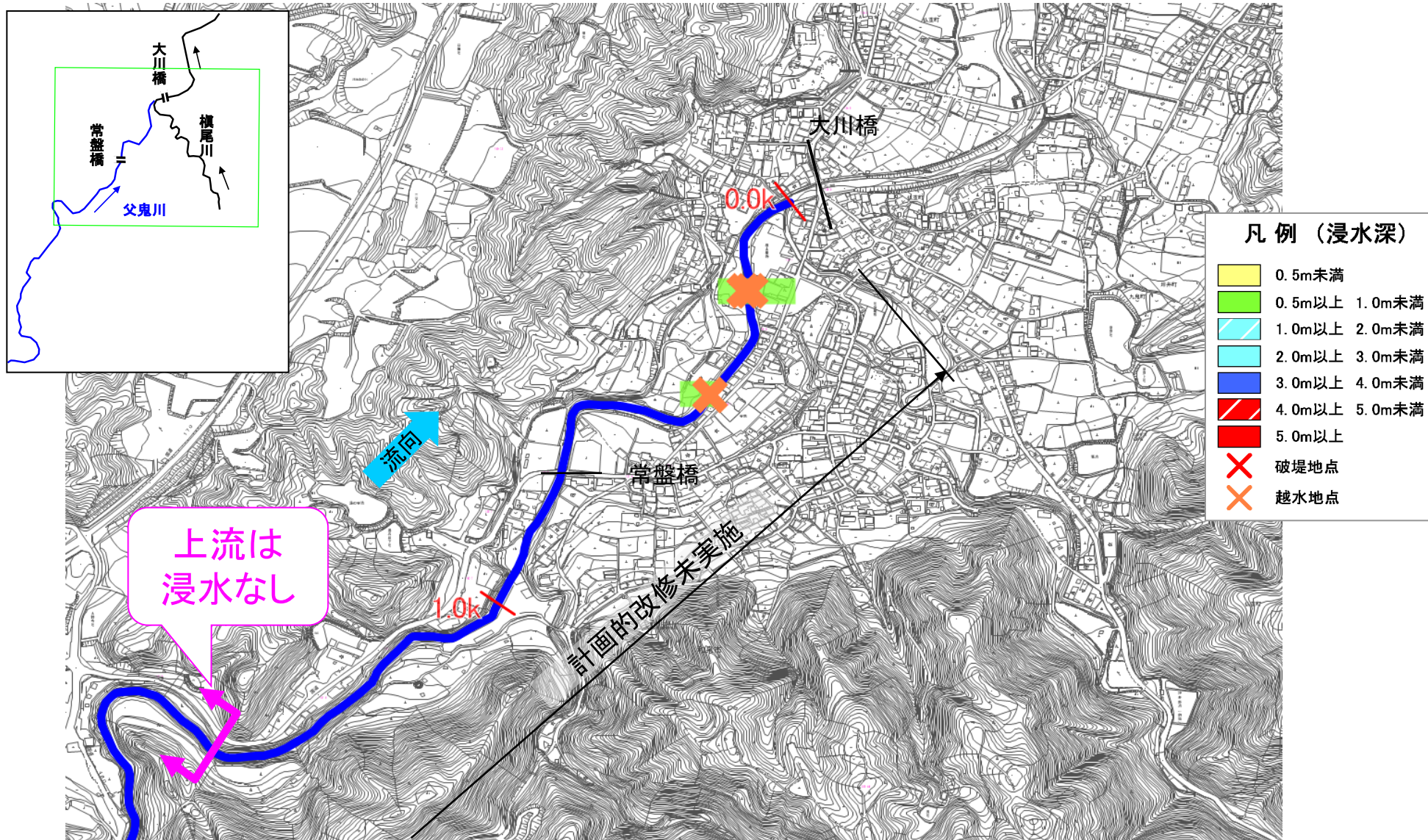
3. 当面の治水目標の設定【父鬼川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量50ミリ，時間雨量65ミリ程度



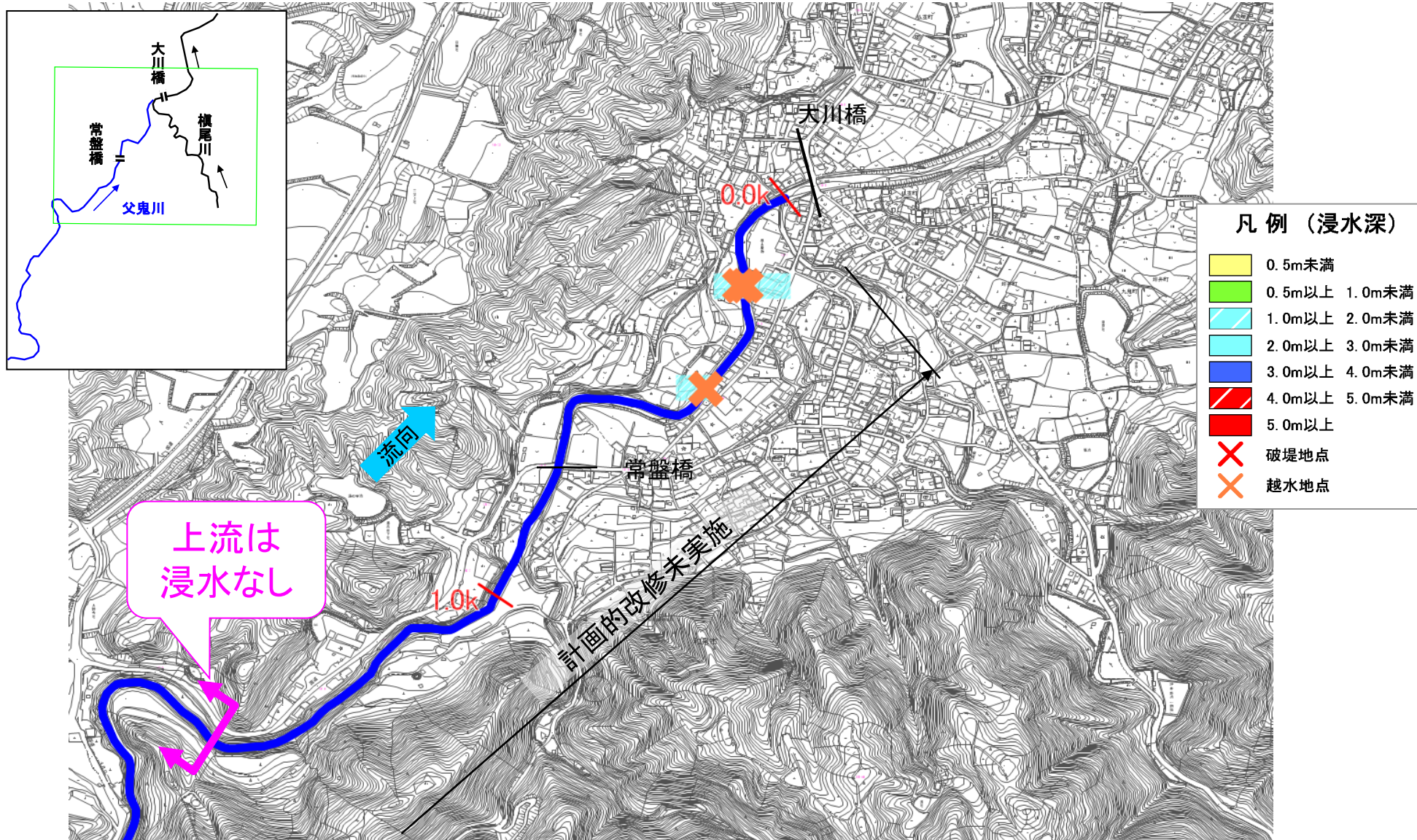
3. 当面の治水目標の設定【父鬼川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量80ミリ程度



3. 当面の治水目標の設定【父鬼川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量90ミリ程度



※堀込河道のため破堤は想定されない。上流から順次、越水を考慮（1洪水）

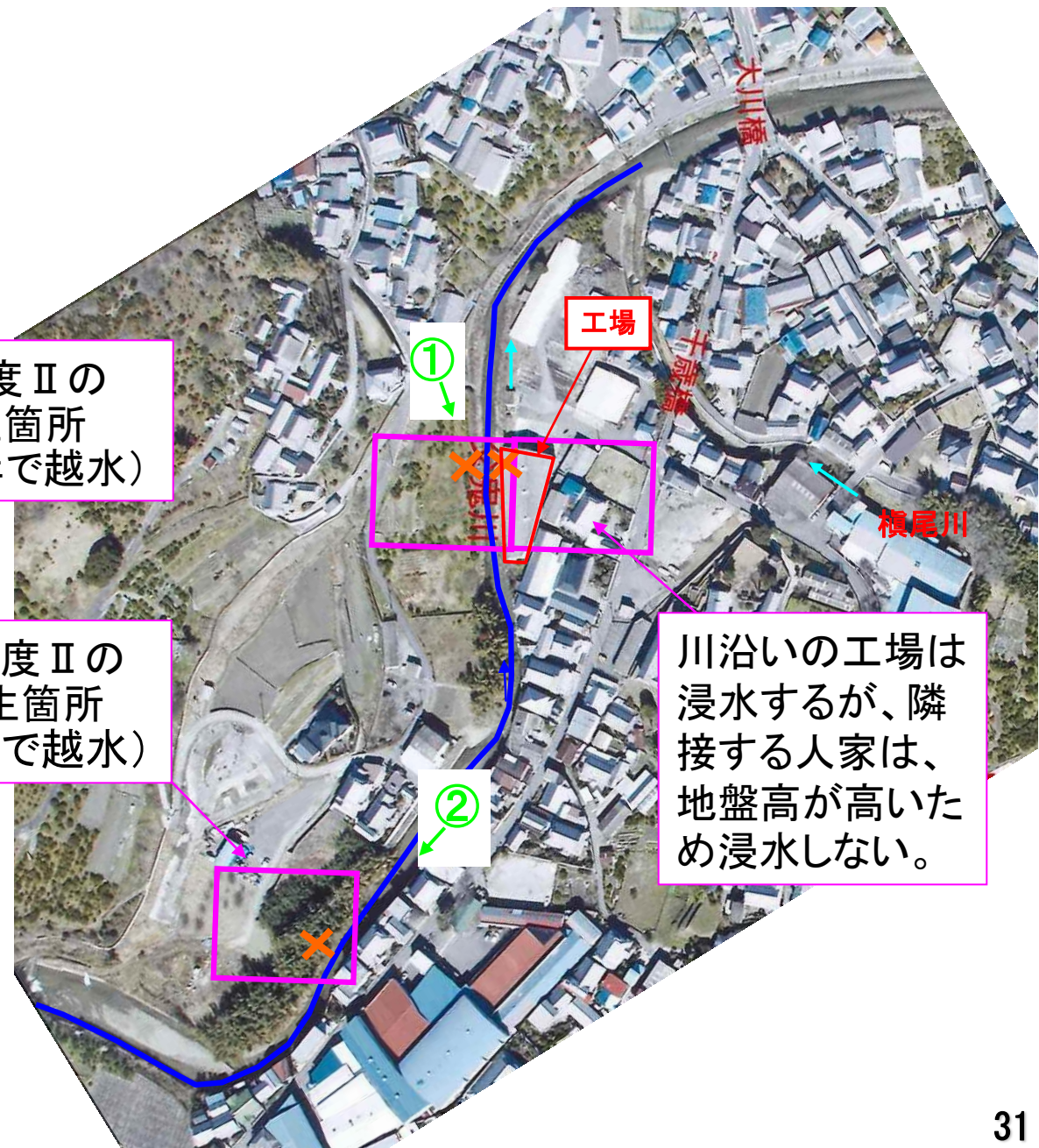
3. 当面の治水目標の設定【父鬼川：現況河道の危険度Ⅱ発生箇所状況】



危険度Ⅱの発生箇所 (左右岸で越水)



危険度Ⅱの発生箇所 (左岸で越水)



川沿いの工場は浸水するが、隣接する人家は、地盤高が高いため浸水しない。

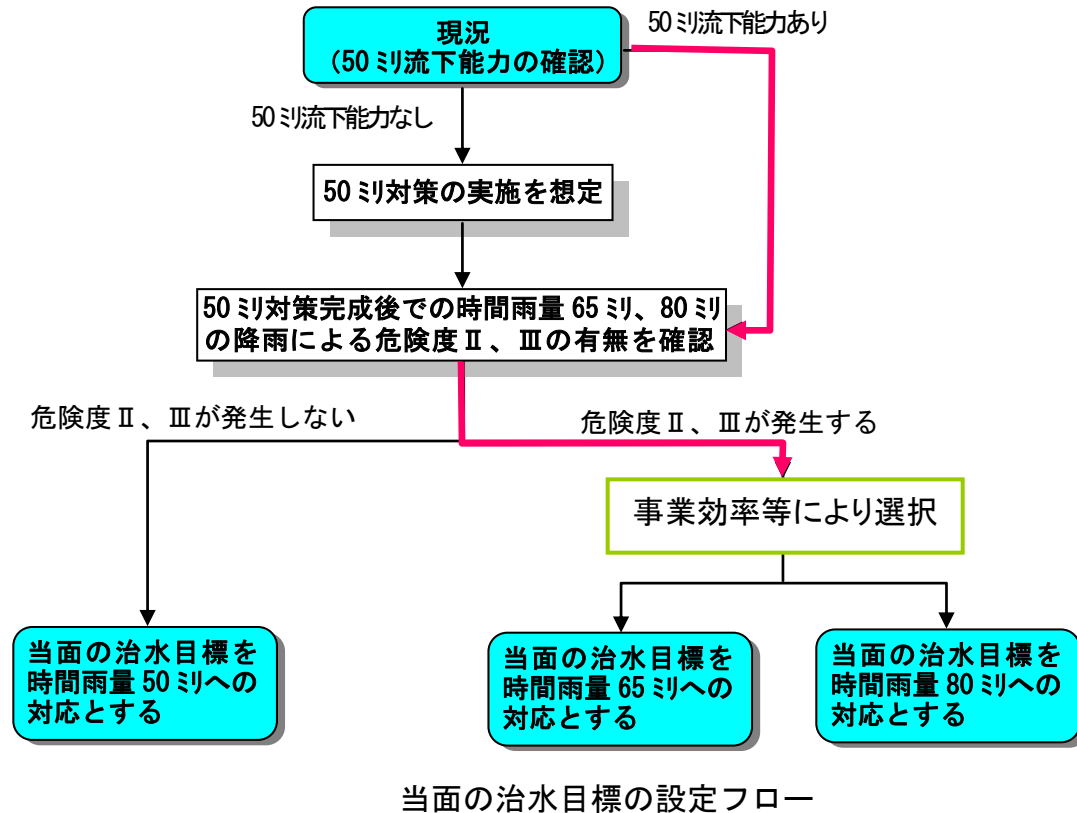
3. 当面の治水目標の設定【父鬼川：現況河道における氾濫解析】

■現況河道における危険度

- ・ 時間雨量50ミリ、時間雨量65ミリ程度の降雨では被害は発生しない。
- ・ 時間雨量80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。

(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	被害なし	0.75ha 0人 10百万円	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	被害なし	0.75ha 0人 20百万円	被害なし

(発生頻度) 大 ↑ ↓ 小
 (被害の程度) 小 ← → 大
 床下浸水 床上浸水 (0.5m以上) 壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m3/s2以上)



時間雨量65ミリ程度（現況河道）もしくは時間雨量80ミリ程度の対策を事業効率等により選択

3. 当面の治水目標の設定【父鬼川：治水手法の検討】

■ 80ミリ対策完成河道での危険度を氾濫解析により確認する。

※ 時間雨量65ミリ程度では危険度Ⅱの被害が生じないため、時間雨量65ミリ対策は行わない。

■ 氾濫解析の前提条件は以下のとおり。

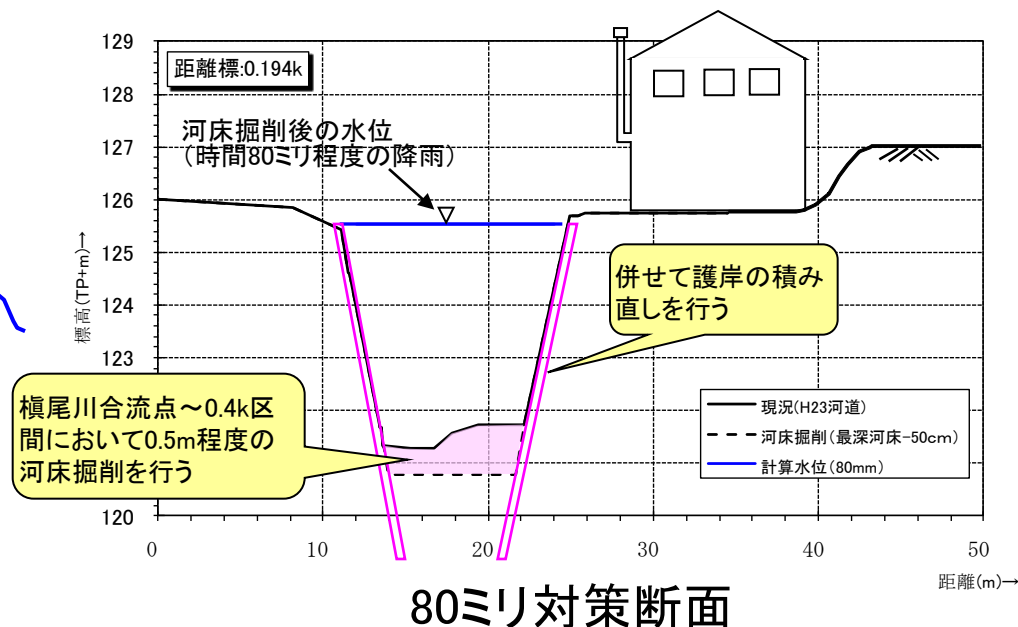
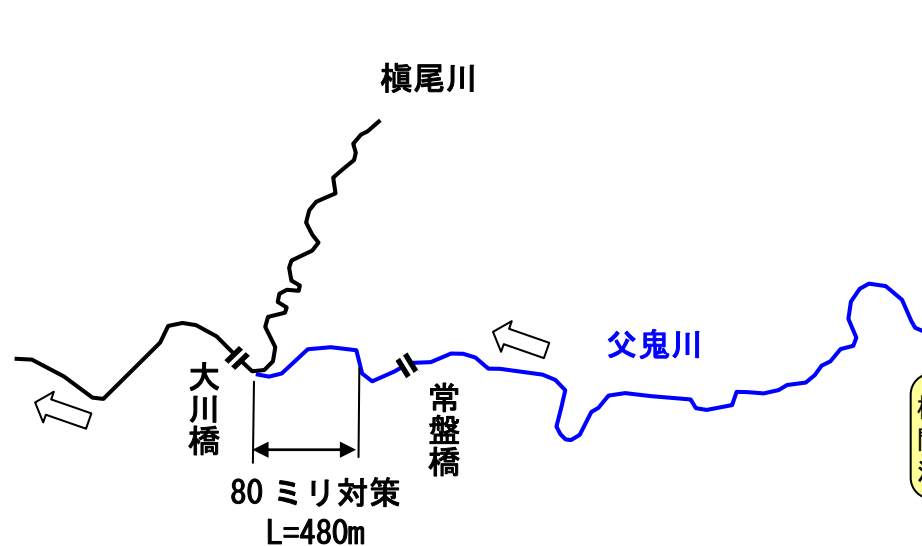
● 要対策延長が短いため、時間雨量80ミリ対策は河道改修とし、局所的な断面改修(榎尾川合流点から上流L=480m)とする。

● 時間雨量80ミリ程度の降雨に対して、危険度Ⅱが解消するレベルの対策を想定。

● 河道と氾濫原を一体的に解析し、河道への復流を考慮したモデル。

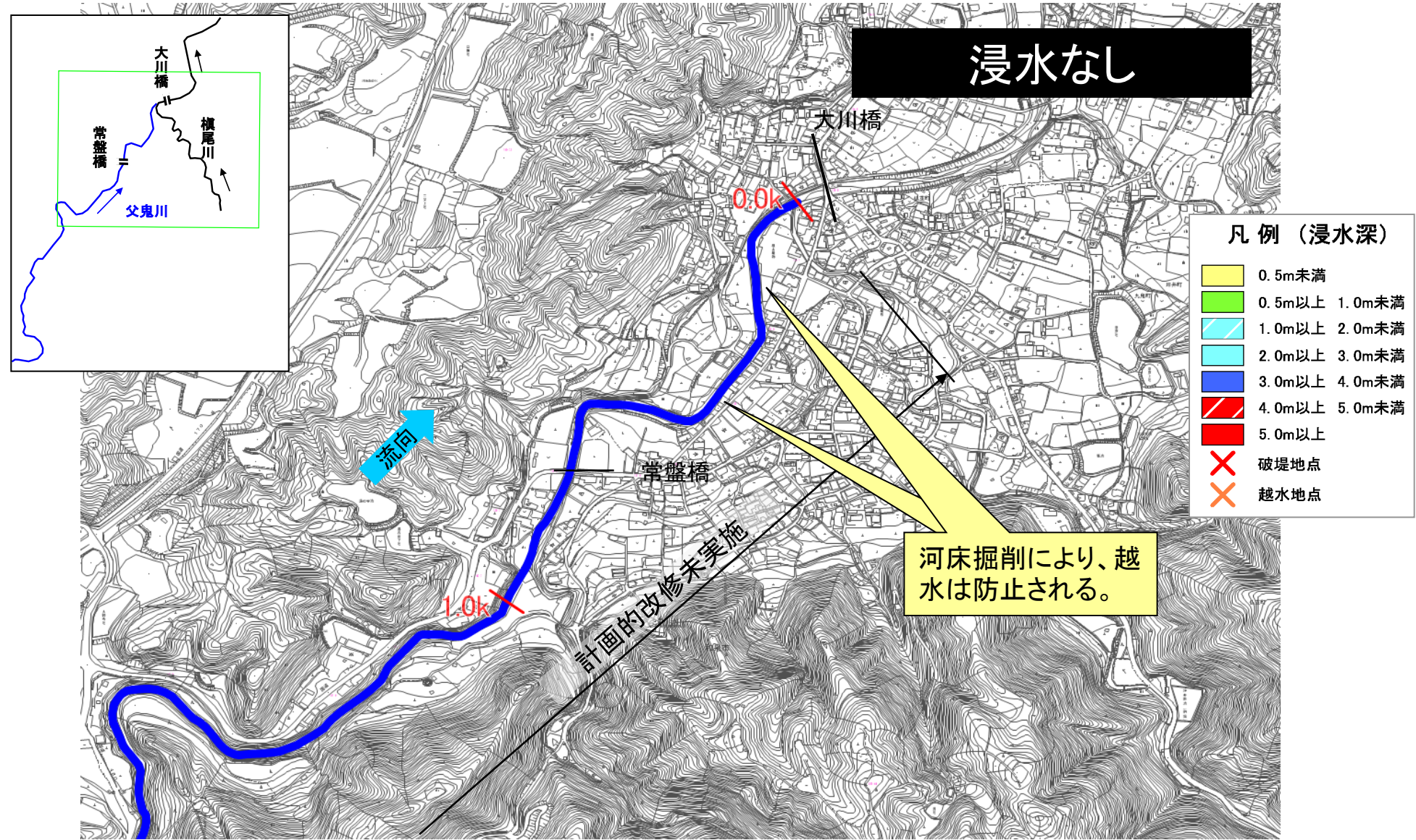
● 氾濫原のメッシュサイズは50m。

● 対象降雨は、時間雨量80ミリ程度、時間雨量90ミリ程度の2ケース。



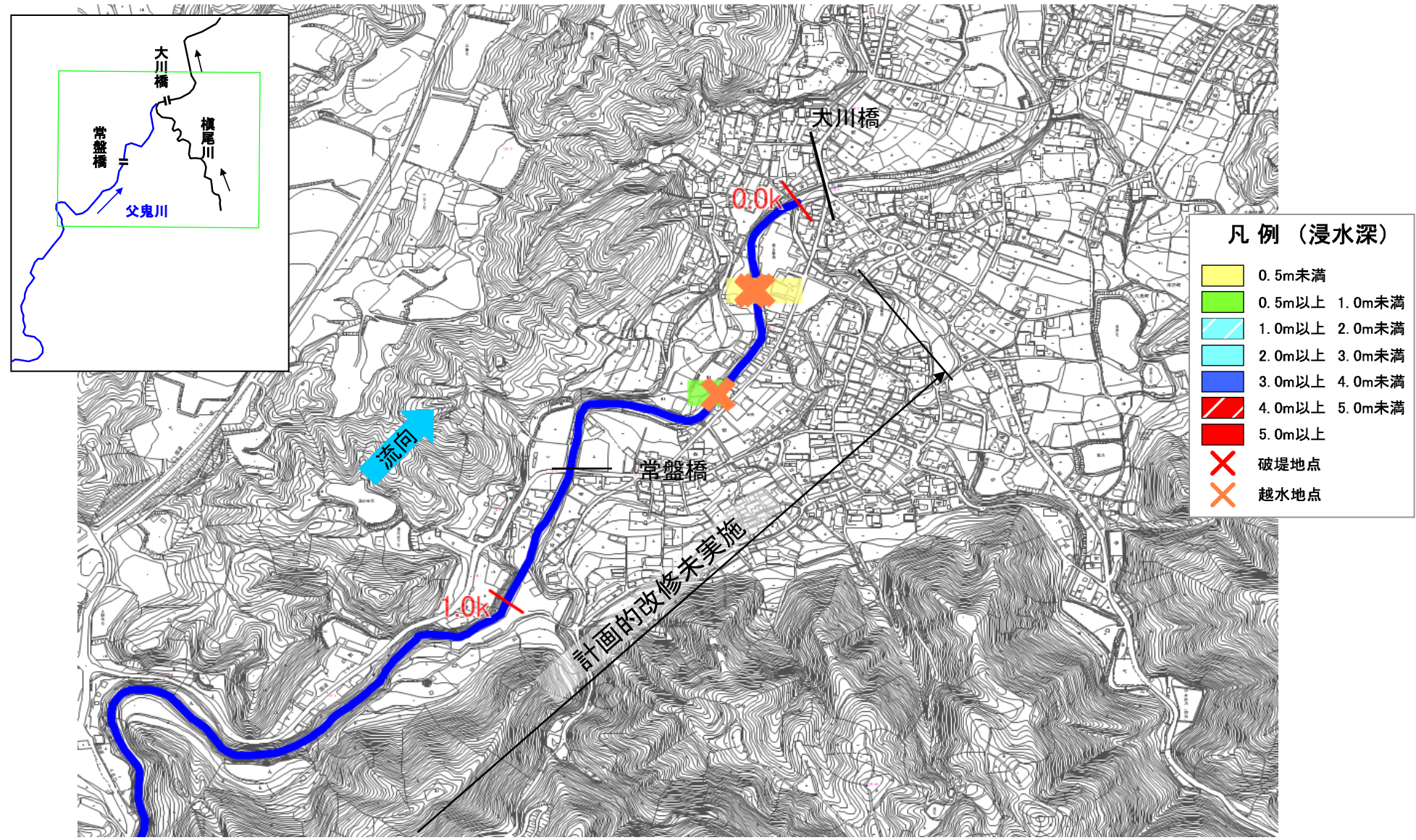
3. 当面の治水目標の設定【父鬼川：80ミリ対策河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果(浸水深) 対象降雨: 時間雨量80ミリ程度



3. 当面の治水目標の設定【父鬼川：80ミリ対策河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果(浸水深) 対象降雨: 時間雨量90ミリ程度



3. 当面の治水目標の設定【父鬼川：当面の治水目標】

65ミリ対策後※の危険度

(年確率)	危険度 I	危険度 II	危険度 III
50ミリ (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	被害なし	0.75ha 0人 10百万円	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	被害なし	0.75ha 0人 20百万円	被害なし

大 ↑ (発生頻度) ↓ 小

小 ← (被害の程度) → 大

床下浸水 床上浸水 (0.5m以上) 壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m³/s²以上)

効果：0円
費用：0円

効果－費用：0円

大 > 小

80ミリ対策後の危険度

(年確率)	危険度 I	危険度 II	危険度 III
50ミリ (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	被害なし	被害なし	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	0.50ha 0人 3百万円	0.25ha 0人 5百万円	被害なし

大 ↑ (発生頻度) ↓ 小

小 ← (被害の程度) → 大

床下浸水 床上浸水 (0.5m以上) 壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m³/s²以上)

効果：6百万円
費用：106百万円

効果－費用：-100百万円

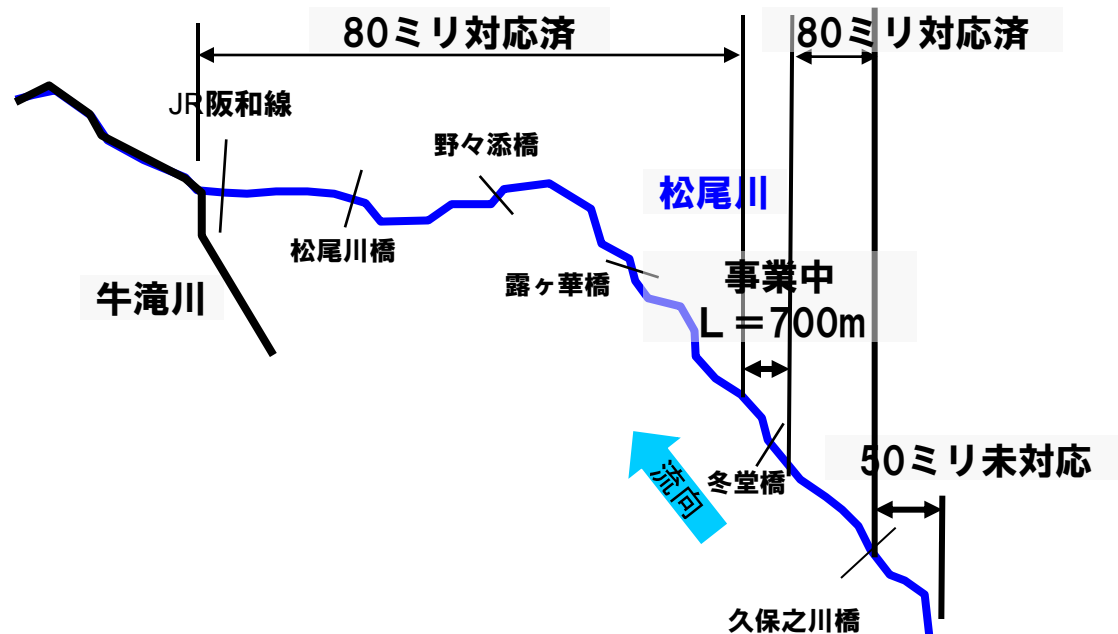
当面の治水目標を時間雨量65ミリ程度※とする。

※現況河道において時間雨量65ミリ程度の降雨では被害は発生しない。

3. 当面の治水目標の設定 【松尾川】

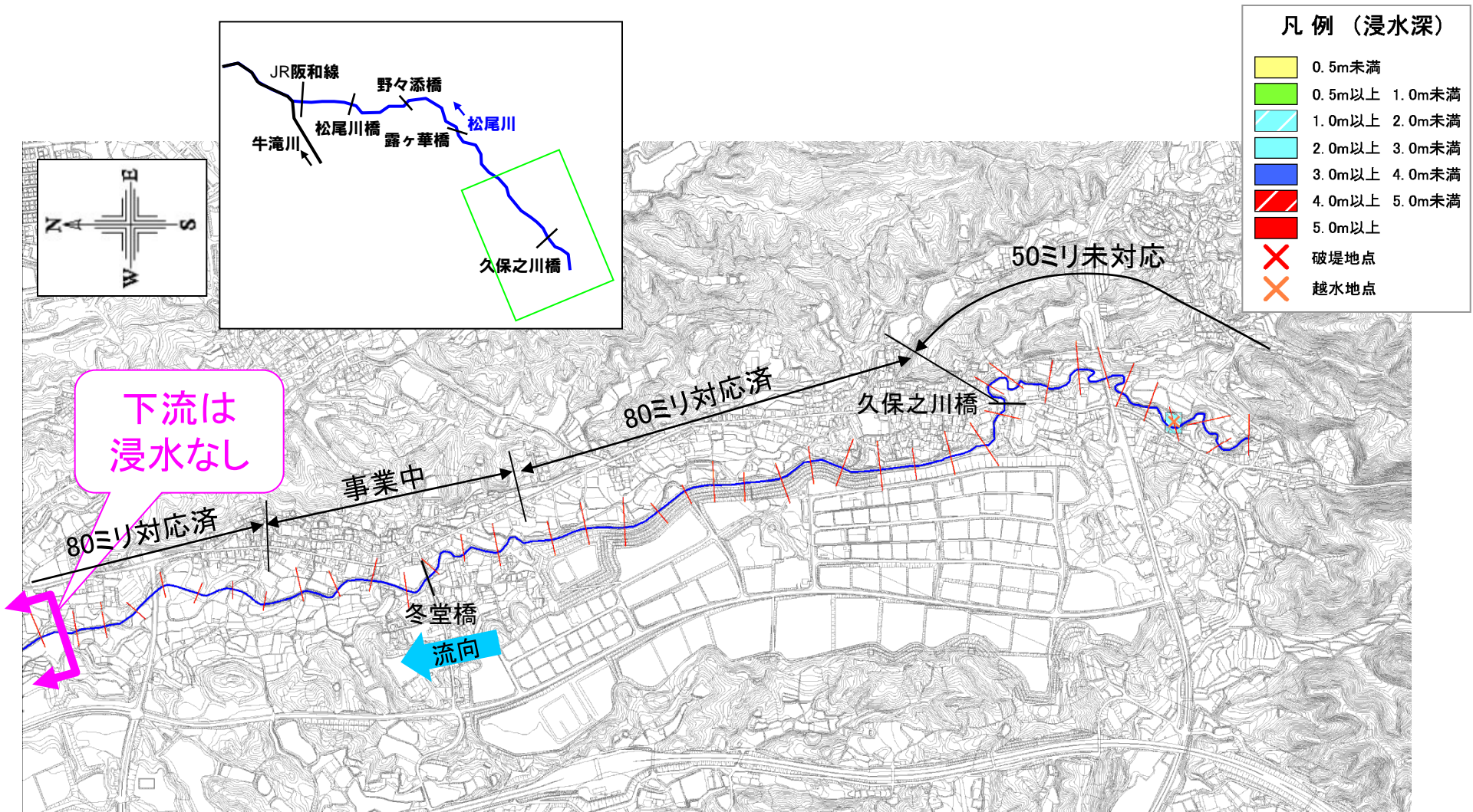
3. 当面の治水目標の設定【松尾川：現況河道における氾濫解析】

- 現況河道での危険度（被害想定）を氾濫解析により確認する。
- 氾濫解析の前提条件は以下のとおり。
 - 現況河道（一部区間で事業中）で氾濫解析を実施。
 - 河道と氾濫原を一体的に解析、河道への復流を考慮したモデル。
 - 氾濫原のメッシュサイズは50m。
 - 対象降雨は、時間雨量50ミリ、時間雨量65ミリ程度、時間雨量80ミリ程度、時間雨量90ミリ程度の4ケース。



3. 当面の治水目標の設定【松尾川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量50ミリ

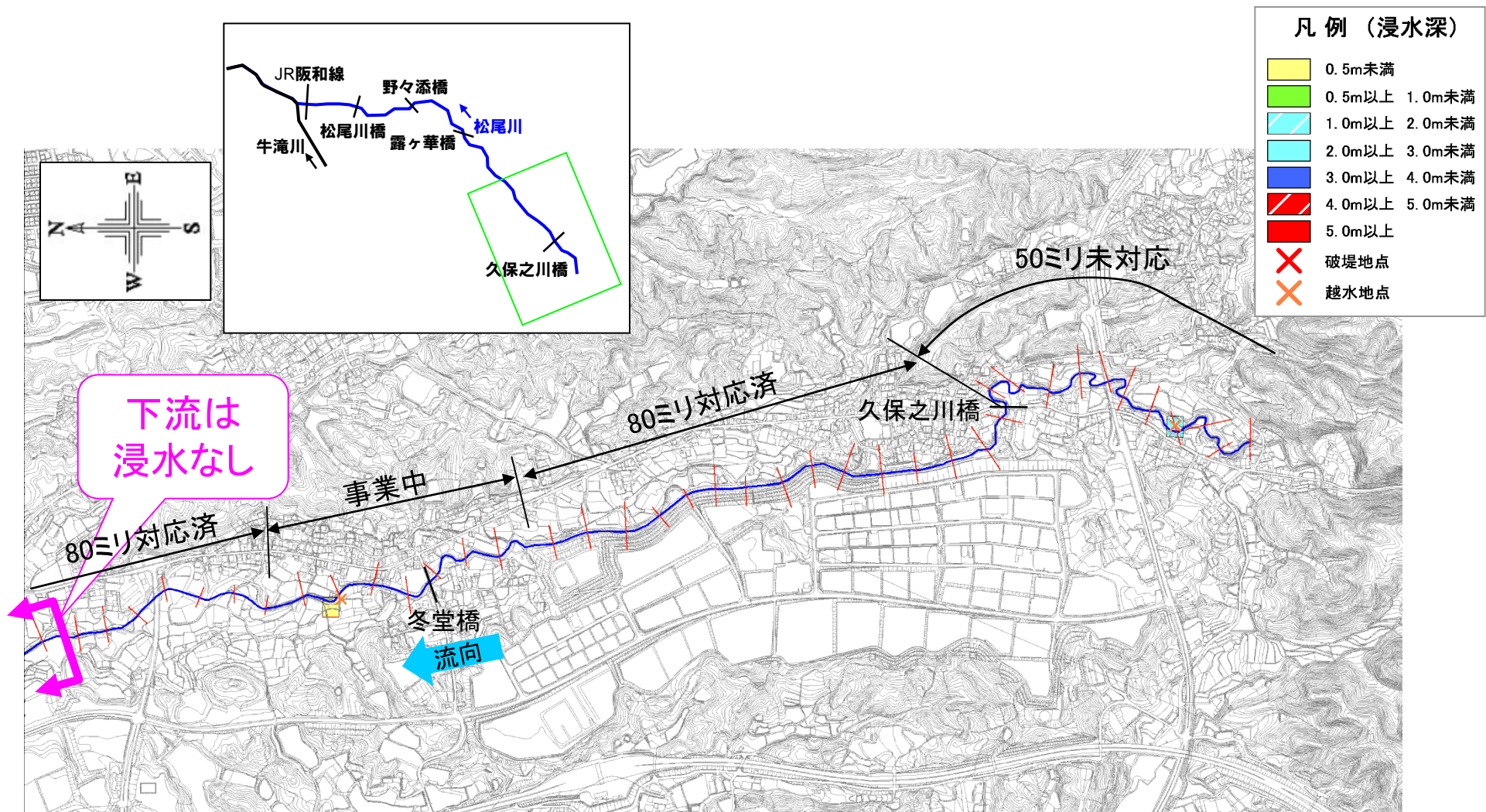


上流部

※被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)

3. 当面の治水目標の設定【松尾川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量65ミリ程度

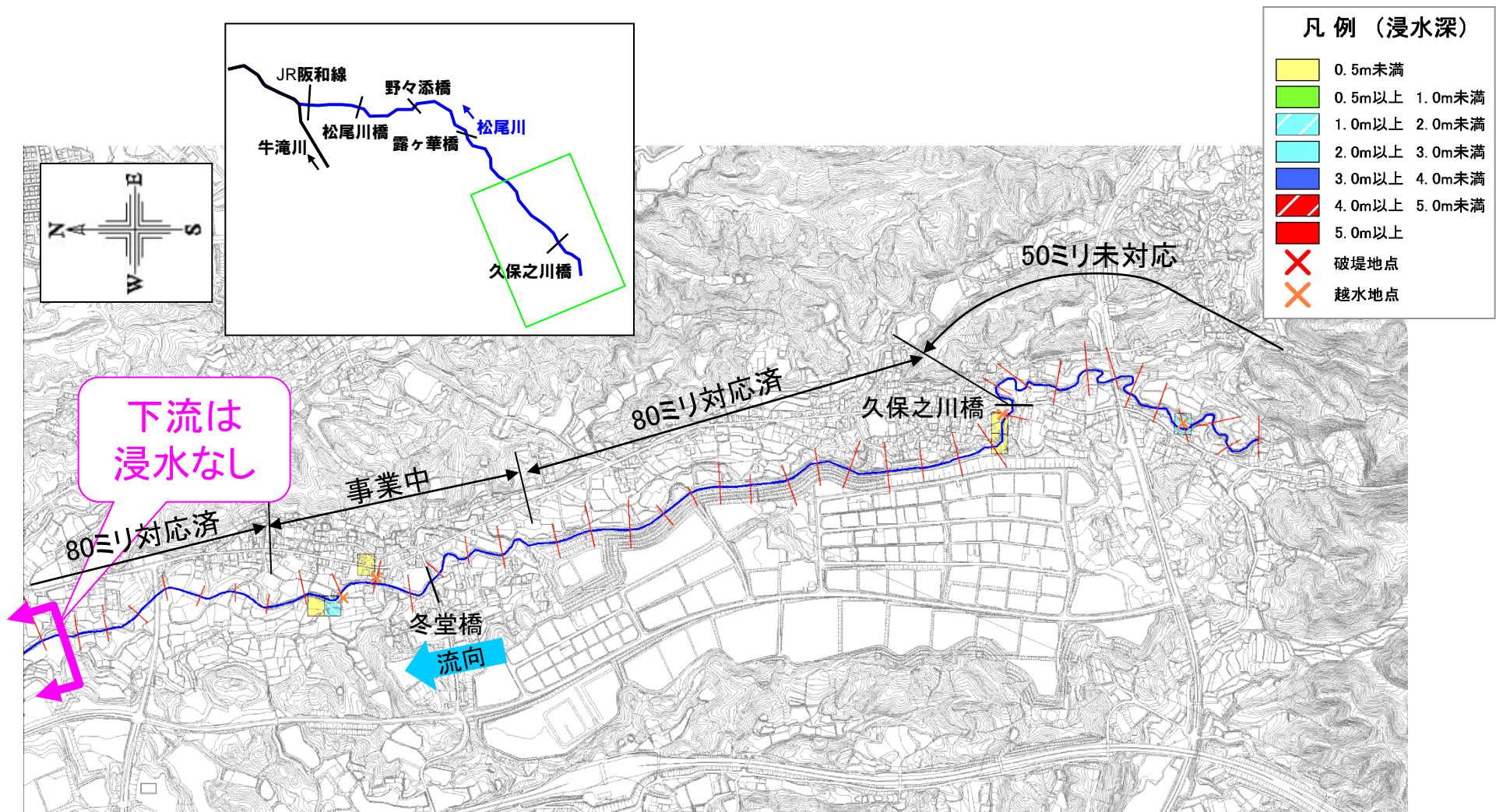


上流部

※被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)

3. 当面の治水目標の設定【松尾川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量80ミリ程度

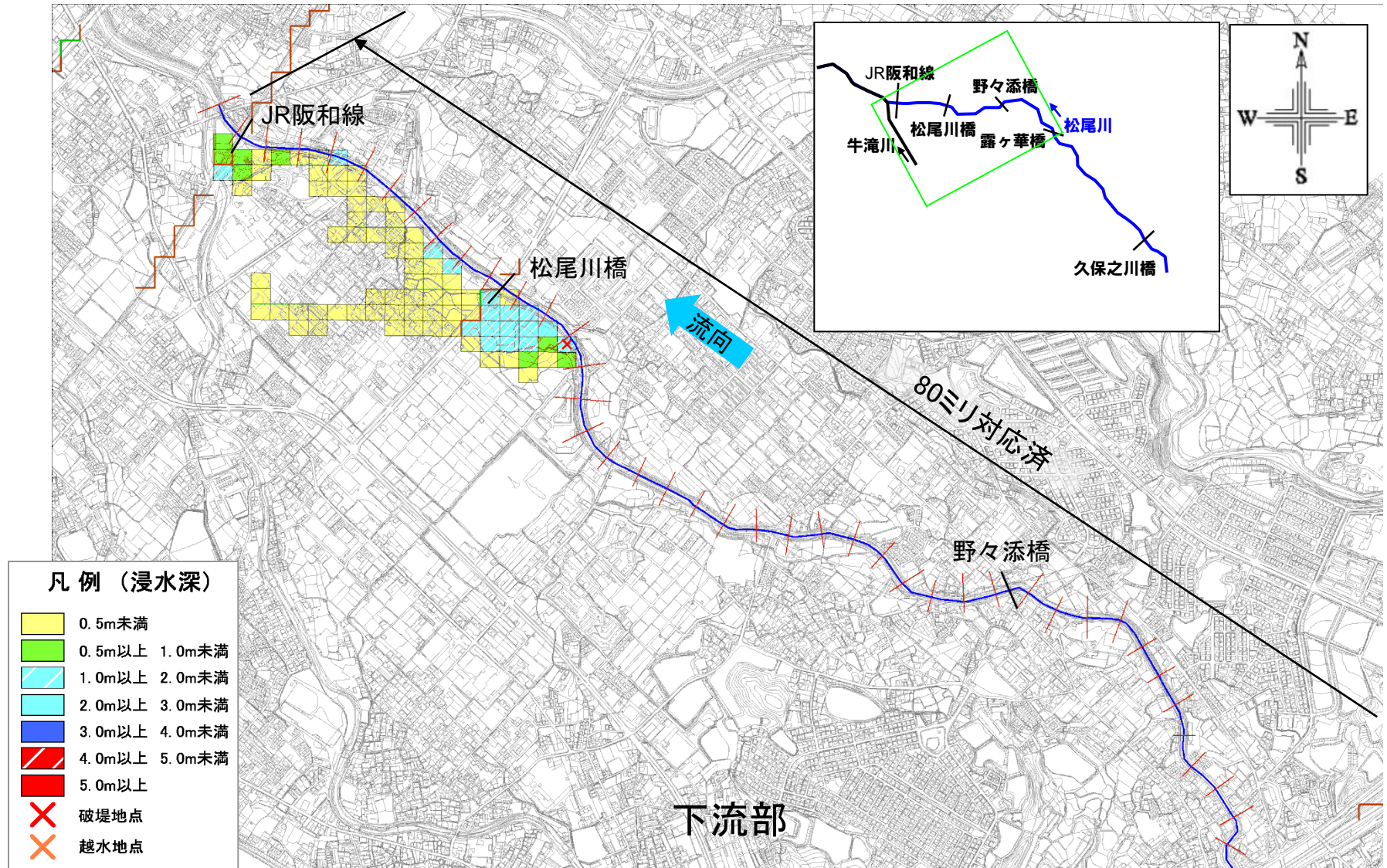


上流部

※被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)

3. 当面の治水目標の設定【松尾川：現況河道における氾濫解析】

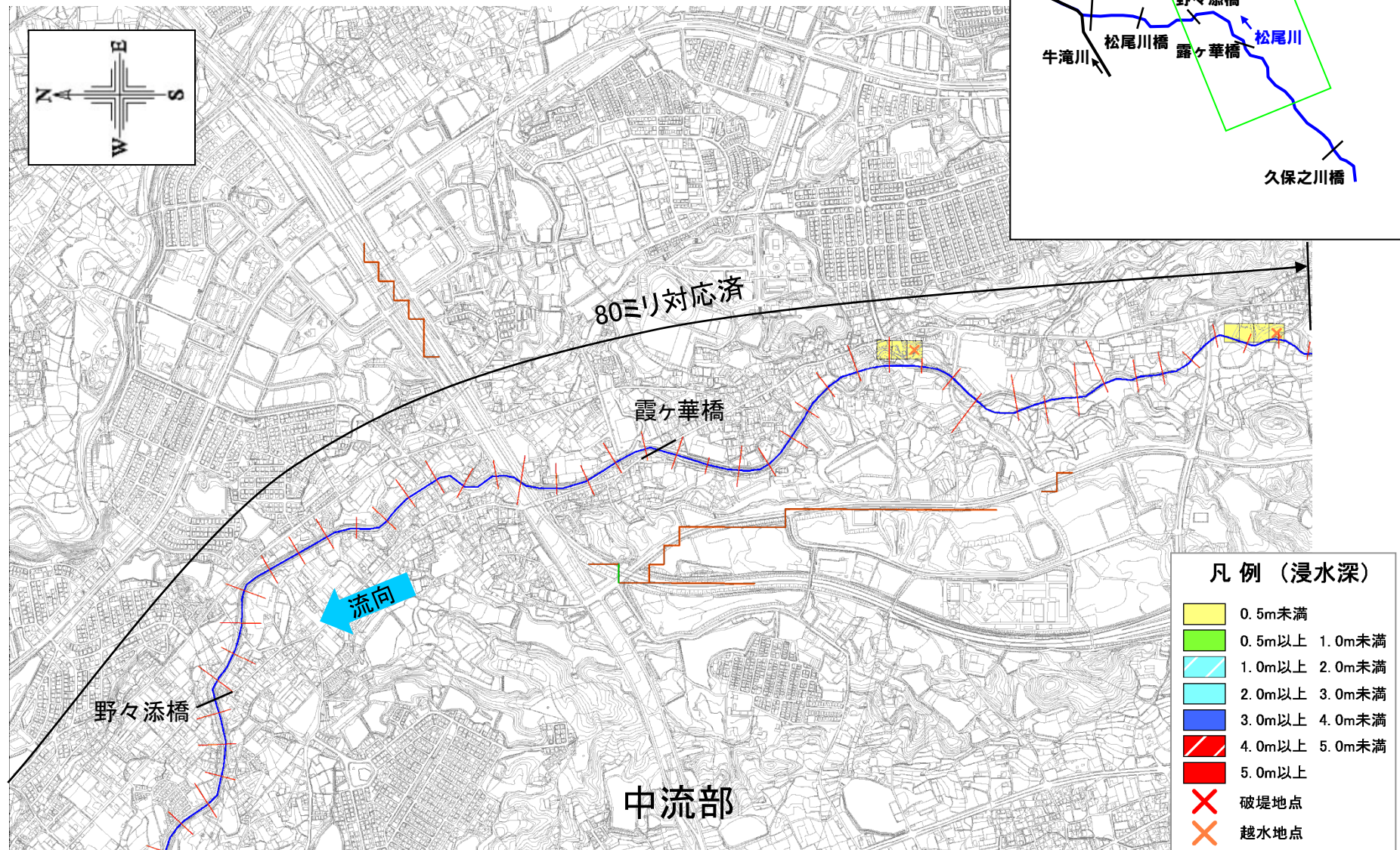
■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量90ミリ程度



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)

3. 当面の治水目標の設定【松尾川：現況河道における氾濫解析】

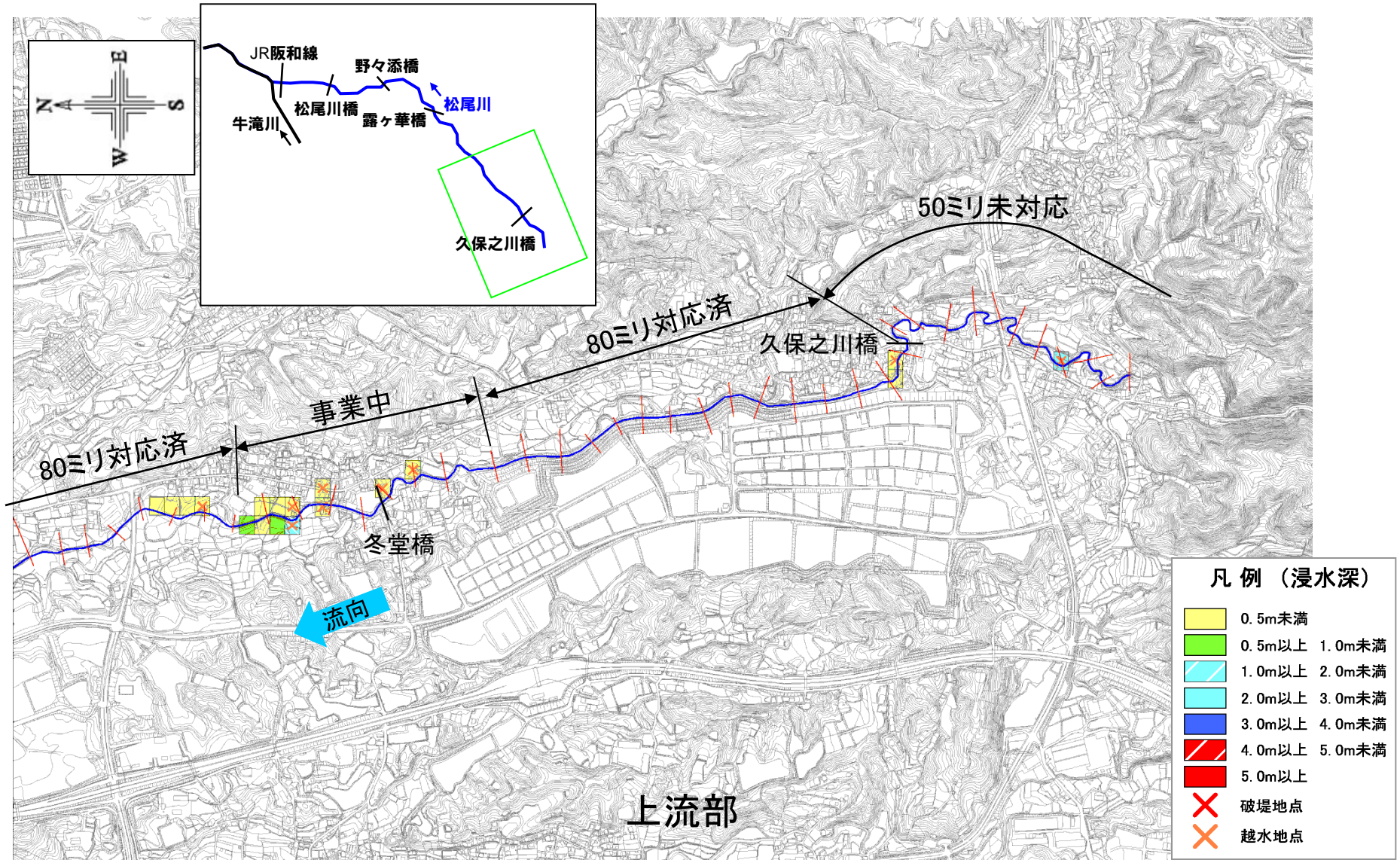
■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量90ミリ程度



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)

3. 当面の治水目標の設定【松尾川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量90ミリ程度



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)

3. 当面の治水目標の設定【松尾川：現況河道における氾濫解析】

■現況河道（松尾川）・・・時間雨量50ミリ、時間雨量65ミリ程度、時間雨量80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱの被害が発生する。（ただし、人家への被害が発生しない。）

		(年確率)		
		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
(発生頻度)	大	50ミリ (1/10程度)	0.25ha 0人 18百万円	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	0.25ha 0人 2百万円	0.25ha 0人 18百万円	被害なし
	80ミリ程度 (計画規模)	1.00ha 20人 156百万円	0.50ha 0人 37百万円	被害なし
	小	90ミリ程度 (超過洪水)	19.25ha 1,088人 2,188百万円	7.25ha 228人 3,719百万円
		床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m ³ /s ² 以上)
		小	大	
		(被害の程度)		

※被害額等は、被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)した被害から算出。

3. 当面の治水目標の設定（松尾川の状況）

- 松尾川では、過去より河川改修を行っているが、近年、護岸の老朽化が著しく進行している箇所がみられる。
- 事業中区間（庄ノ川橋下流～冬堂橋上流）においても、護岸の崩壊が発生している。



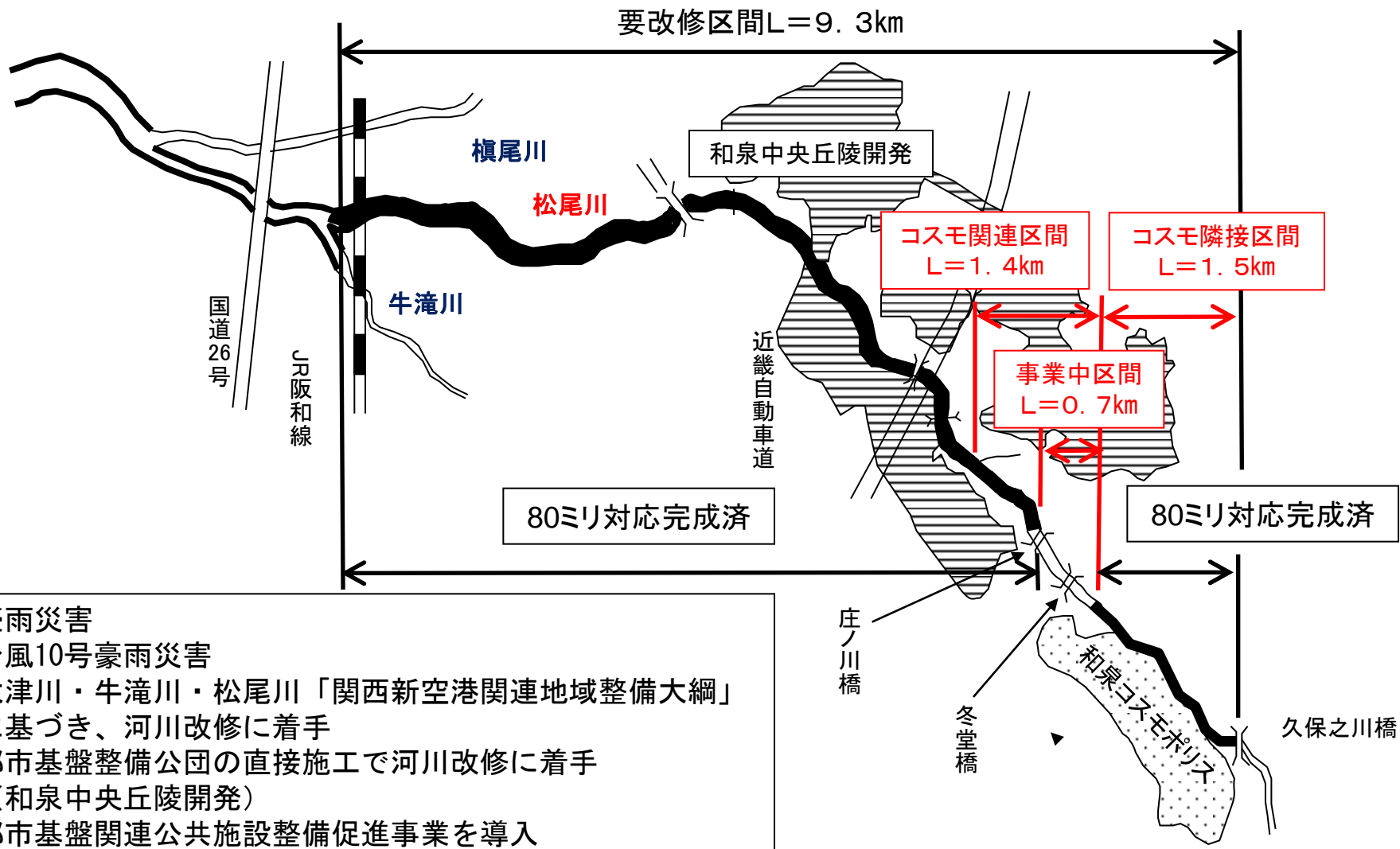
平成23年被災箇所 冬堂橋下流右岸



平成24年被災箇所 庄ノ川橋下流右岸

3. 当面の治水目標の設定（松尾川の状況）

■未改修区間（庄ノ川橋～冬堂橋上流〔L=0.7km〕）について



- S27.7 豪雨災害
- S57.8 台風10号豪雨災害
- S60 大津川・牛滝川・松尾川「関西新空港関連地域整備大綱」に基づき、河川改修に着手
- S60 都市基盤整備公団の直接施工で河川改修に着手（和泉中央丘陵開発）
- S61 都市基盤関連公共施設整備促進事業を導入
- H7 和泉コスモポリス関連区間の事業着手
- H10 和泉コスモポリス関連区間のうち隣接区間が概成
- H13.2 大津川水系河川整備計画策定

3. 当面の治水目標の設定（松尾川の状況）

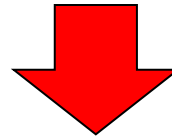
●用地買収状況

◎全地権者に、用地買収に向けた説明会を実施済。

◎庄ノ川橋～冬堂橋(L=0.38km)については、ほぼ買収済。

◎冬堂橋上流(L=0.32km)についても、買収価格の提示や用地境界確定作業中。

買収対象面積	買収面積	買収率
9,300㎡	3,730㎡	40%



未改修区間についても上下流区間と同レベル(80ミリへの対応)で改修を進める。

3. 当面の治水目標の設定（まとめ）

河川	氾濫シミュレーション結果および当面の治水目標(案)	
大津川	現況	●時間雨量80ミリ程度までの降雨では被害が発生しない。 ⇒当面の治水目標を 現状維持 とする。
槇尾川	現況	●時間雨量50ミリの降雨で危険度Ⅱが発生する。
	50ミリ 対策後	●時間雨量65ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。 ⇒当面の治水目標は 時間雨量65ミリ程度 とし、その治水手法は河道改修(局所)とする。
東槇尾川	現況	●時間雨量50ミリの降雨で危険度Ⅰが発生する。
	50ミリ 対策後	●時間雨量65ミリ程度の降雨で危険度Ⅰが発生する。 ●時間雨量80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。 ⇒事業効率比較より、当面の治水目標は 時間雨量65ミリ程度 とする。

3. 当面の治水目標の設定（まとめ）

河川	氾濫シミュレーション結果および当面の治水目標(案)	
父鬼川	現況	<ul style="list-style-type: none"> ●時間雨量50ミリ・65ミリ程度の降雨では被害が発生しない。 ●時間雨量80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。 ⇒事業効率比較より、当面の治水目標を 時間雨量65ミリ程度 とする。
牛滝川	現況	●時間雨量50ミリの降雨で危険度Ⅱが発生する。
	50ミリ 対策後	<ul style="list-style-type: none"> ●時間雨量65ミリ程度・80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。 ⇒事業効率比較より、当面の治水目標は 時間雨量65ミリ程度 とする。
松尾川	現況	<ul style="list-style-type: none"> ●時間雨量50ミリ・65ミリ程度・80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。 (ただし、人家への被害は発生しない。) ⇒ 当面の治水目標を 現状維持 とする。 ⇒ ただし、事業中区間では、護岸の老朽化が進行していること、用地交渉も概ね進んでいること、及びその上流部が開発に伴い80ミリ対策が完成していることから、 現計画規模(時間雨量80ミリ程度)で改修を継続する。